



京都 それぞれの京都論 TOMORROW

2003

Vol.3 No.10

特集

京都市長選

動きだした市民派



●特別寄稿 今、なぜ、市民派か

折田泰宏

●ドキュメント 「京都市長を選ぶ市民の会」

— 広原盛明氏はこのようにして選ばれた

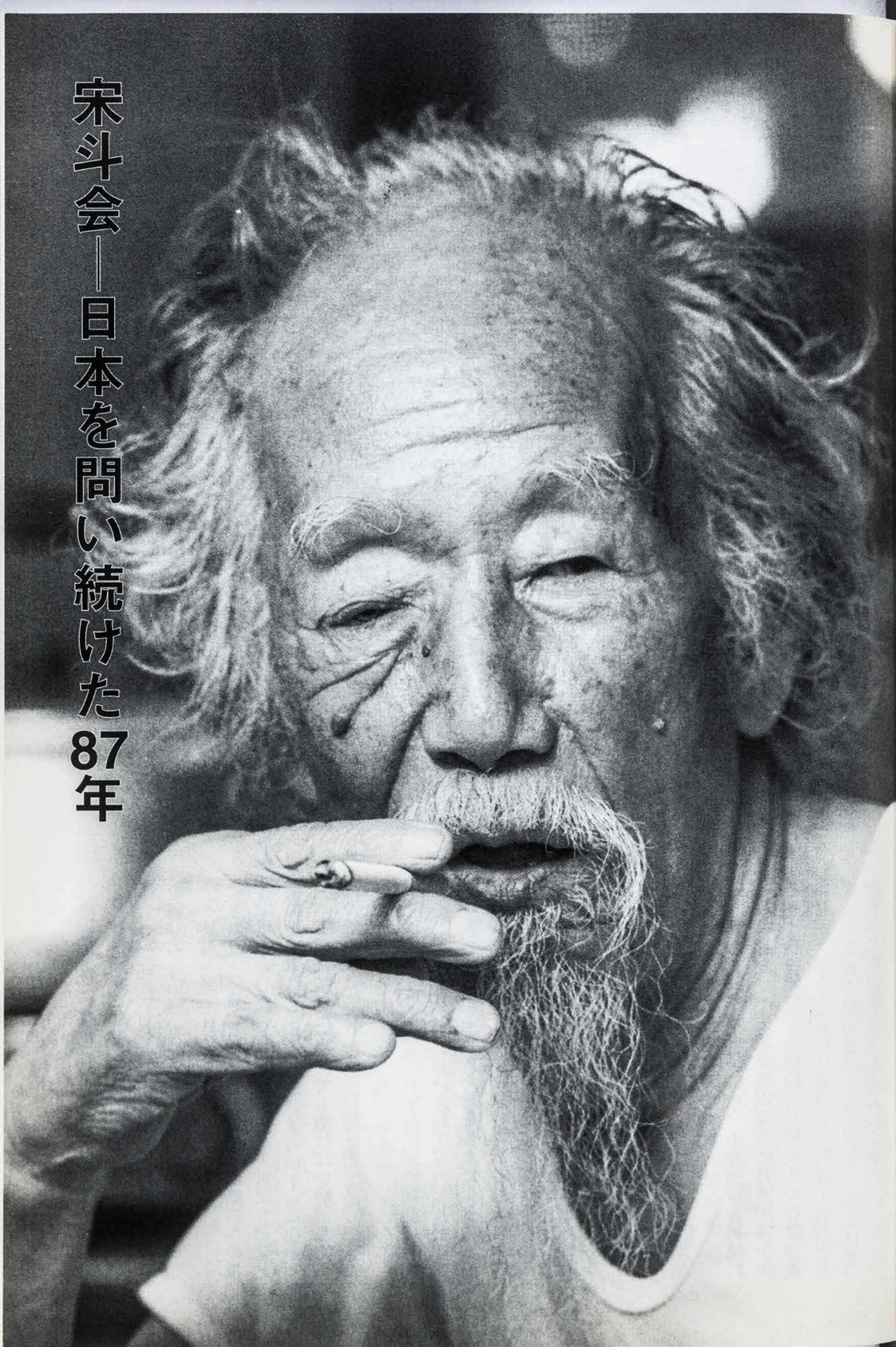
◇座談会 “市民派” の声は遠吠えか。 今井 一／富野暉一郎／四方功一 折田泰宏

◇取材 市民派が取り組んだ選挙 明石市・神戸市・尼崎市・徳島県・横浜市

◆グラビア 宋斗会 日本を問い続けた87年 ◆京都に、新しいアートシアターを!! 神谷雅子

◆ヤミ金、その実態 牧野 聡 ◆建築探偵団調書・そこらへんの風景 みちしるべ 円満字洋介

宋斗会—日本を問い続けた87年



ひまわり畑の町でみつけた風景

北の国の秋は早くて…

イラスト 文：橋本のりえ



50回忌に、浮島丸沈没の海を望む地で犠牲者を悼む宋さん(中央)＝舞鶴市下佐波賀で、94年8月23日



一審判決後、原告と共に記者会見に臨んだ宋さんは、一気に声明を読み上げ会見を打ち切った＝京都市中京区の京都弁護士会館で、01年8月23日

終戦直後に京都府・舞鶴湾で海軍輸送船「浮島丸」が沈没し、500人以上の朝鮮人労働者が死亡した。韓国に住む遺族らに裁判を呼びかけ、半世紀ぶりに事件を掘り起こしたのが宋斗会さんだった。

2001年夏、京都地裁は国に一部原告への損害賠償を命じた。しかし、結局、半世紀も遺骨と遺族を放置したことへの謝罪すら国からはなかった。「遺骨は舞鶴の海にでも撒けばいい。私たちは舞鶴の砂を握り、祖先の墓に撒こう」。宋さんは記者会見を打ち切った。

宋さんは1915年、日本統治下の朝鮮に生まれた。丹後網野の寺に預けられて育ち、18歳の時、山気ある若者が当時多く海を越えたように、旧満州に渡った。しかし、思いを託した大日本帝国はアジアに多大な被害をもたらした。45年敗戦。

「私の責任は戦争の中にあり、負けたことについて当然責任を負わなければならない」

旭日旗を打ち振った人々は戦後、掌を返して「平和主義者」に衣替えしたが、宋さんは自らを欺かなかった。もう何も発言しないと決めた。それが責任の取り方だった。

しかし、日本政府は52年、主権回復と同時に1枚の通知で、旧植民地出身者の日本国籍を失わせて戦後補償から排除し、外登法で管理対象にした。第2次大戦に従軍した朝鮮・台湾出身軍人・軍属の戦死者は5万人以上。彼らは皆、日本のために死んだにもかかわらず。

宋さんは法的にも実体的にも「日本人」のほか生きる道はなかったが、毎年「格別の御詮議を」と書かされて「在留許可」を得た。宋さんは耐えた。しかし、もはや不正義と侮蔑は許せなかった。69年、「二言の相談もなく国籍を奪った」と日本国籍確認訴訟を起こす。敗戦時にサハリンに置き去りにされた朝鮮人の問題など戦後日本を告発し続け、90年代の戦後補償裁判の潮流を生んだ。

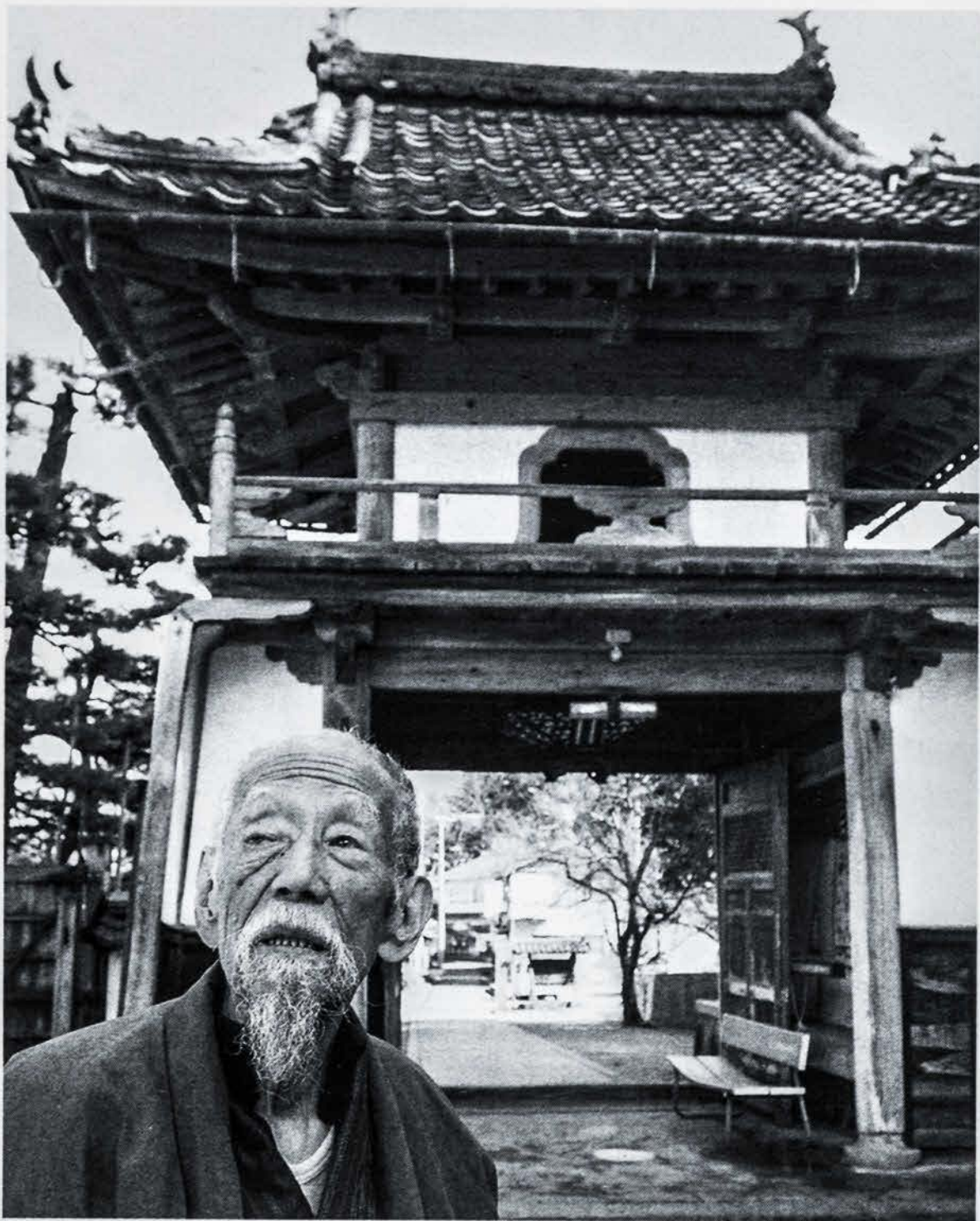
02年6月8日夜、宋さんは87回目の誕生日に逝った。生前は京都大熊野寮の一室に住んでいたが、人知れず古い薬瓶を持っていた。恐らく毒物だった。宋さんは常に自身が関与した歴史の重荷を、命の傍に置いていた。

「隣人への信義を守らぬ国に未来などない」「日本人」宋斗会の言葉は、責任を感じるほどの良心も失ってしまったこの国の、行く方を憂える内部告発だった。しかし、大方の日本人は冷笑をもって遇した。

宋さんが73年夏に法務省前で外登証を焼き捨て、外登法違反に問われた刑事裁判の被告陳述書の末尾にこうある。

「二十年三十年後の日本人から嗤われ或は恨みに思われることのない様な判決をと、かなかな、かすかな期待をこめて」

30年後の今、私たちは誰を嗤うのか？



死の3カ月前に、若き日を過ごした寺を訪れた宋さん＝京都府網野町で、02年3月7日



地方自治の基本は 「私のまちのことは私が決める」ということだ。

地方自治は直接民主主義を原則としている。首長は自治体の住民の直接選挙で選ばれ、地方自治法では町村については必ずしも議会を置かないで住民総会がこれに代わるということが認められている。しかし、現実には、全ての自治体は議会を持ち、政治的な決定に市民が直接参加する道が閉ざされている。その結果、市民の大多数の意向と議会の決定が異なるという現象が生じて来るが、議会の議員は「自分たちは選挙で選ばれた市民の代表だ」と居直ることとなる。住民投票条例の制定請求における議会の対応が典型的な例だ。今回、思いがけず首長選挙に関わることとなり、改めて民主主義に関係する書籍を探し求めて読みまくっているが、議会制デモクラシーと直接デモクラシーとどちらが民主的かという議論は永遠の課題であることが分った。R・A・ダールがいうように「デモクラシーの単位が小さくなれば、それだけ市民参加の可能性が大きくなり、市民が政治的決定を代表に委ねる必要性は減少する。単位が大きくなれば、市民にとって重要な諸問題を処理する能力は大きくなるが、市民が代表に決定を委ねなければならぬ必要性も増大する」(岩波書店「デモクラシーとは何か」というディレンマから逃れることは難しい。しかし、現在のように議会制デモクラシーが閉塞した状況で直接デモクラシーの希求の声が高まることは当然である。二者択一を求めているものではない。議会制デモクラシーを補充する意味で直接デモクラシーを取り込むことが必要なのだ。全国各地で爆発する無党派、市民派の動き、住民投票条例の制定請求はこのような市民の思いの反映なのだ。議会が正常な機能を果たすようになれば、直接デモクラシーの要求は小さくなる。梶本現京都市長は、市民派の市長候補擁立の動きに対し「無党派層あるいは無党派候補というのは、やはり大変難しい問題を起こす可能性が極めて強い」(平成15年4月17日付朝日新聞)と言ったという。ワイマール共和国の大衆デモクラシーがナチスを生み出したと言いたらしい。しかし、ナチスを政権の座につけてしまったのはワイマール共和国の議会制デモクラシーであって直接デモクラシーではない。この発言に梶本市長のデモクラシー感覚の限界が見える。

折田泰宏



生前親しかった人たちに見送られる宋さん＝京都市左京区で、02年6月10日

特集

◆グラビア 宋斗会 日本を問いつけた87年

文・野上 哲

写真・中山和弘 1

京都市長選 —— 動きだした市民派

◆巻頭言 地方自治の基本は「私のまちのことは私が決める」ということだ。

折田泰宏 5

■特別寄稿 今、なぜ、市民派か

折田泰宏 8

■座談会 “市民派”の声は遠吠えか。

出席者／今井 一・富野暉一郎・四方功一 司会／折田泰宏

12

■ドキュメント 「京都市長を選ぶ市民の会」

—— 広原盛明氏は、このようにして選ばれた

22

■取材 市民派が取り組んだ選挙

神戸市 5人が争う「混戦の構図」で批判票を分散

36

明石市 「組織体制の確立の遅れ」と「市民運動と選挙活動は全く違う」

37

尼崎市 政党推薦、政策協定を行わない手作りの選挙で5党推薦の現職を破る

39

徳島県 大田氏の選挙を担ってきたのは、吉野川可動堰建設に反対する市民グループ

40

横浜市 「支持政党なし」の無党派層の5割以上が投票した中田氏が市長に

42

◇住民運動の現場

文化財(豊郷小学校)を破壊した、町長の無法は決して許さない

本田清春 44

◇ヤミ金、その実態

牧野 聡 46

◇京都に、新しいアートシアターを!!

神谷雅子 50

▼リレーエッセイ

伝統の棚卸がやってきた

越村美保子 52

▼建築探偵団調査

そごうへんの風景(一) みちしるべ

円満字 洋介 54

▼ブックレビュー

逆説の対位法 八木俊樹全文集

三木千種 56

▼京都もうひとつの文化

随想『往生礼讃偈』の旋律

藤波 武 58

▼キョウト的アートの見方3

流行に流されず 時を内包して

さとうひさゑ 60

▼展覧会レビュー

ファンを獲得!

三木千種 63

▼表紙のことば

高橋由起子 64

読者のひろば—— 65

(表2イラスト 橋本のりえ)

バックナンバーのお知らせ—— 66

編集後記—— 68

今、なぜ、市民派か

京都市長を選ぶ市民の会共同代表 折田 泰宏

私たちは、そろそろこの京都でも、市民主体の市長候補選びをしたいと考えた。私たち市民が選定した市長が実現することは、市の行政を明るく身近なものとし、市と市民との一体感が増幅し、京都市全体が活性化することになるのではないかと夢見ている。

シュワルツネッガーの勝利

シュワルツネッガーは、平成15年10月8日、カリフォルニア州知事選挙で圧倒的多数で当選した。同氏は、選挙中「政治を役人から民衆の手に取り戻そう」と叫び、州民の喝采を受けたという。

我が日本国民はアメリカ人ほど単純ではないので、戦後の政治状況の中で政治嫌いが増え、政党主導で選ばれる候補者による首長選挙の投票率は極めて低調である。政党嫌い、役人嫌いの中で結果的に選ばれる首長の顔ぶれは変わることなく、それがさらに政治嫌いを加速させている。

しかし、最近になって自治体の首長選挙は、少し様相が変わってきた。千葉県の堂本知事、長野県の田中

知事、徳島県の太田前知事、そして国立市の上原市長、今年では横浜の中田市長、尼崎の白井市長等々、政党から離れ、また役人でもない、いわゆる市民派を標榜する首長が当選する事態が展開している。

これらの首長は、大方の予想を裏切って、その自治体の与党派が推す役人経験者等の候補者をけ落としての当選である。しかも、選挙運動が、労働組合や政党組織等の既成の組織によるだけでなく、未組織の一般市民が大きな役割を果たしていることが特徴的である。

市民は、政党のしがらみを持たない、また役人の経験を持たない首長に、自分たちの生活の場である自治体の政治を預けることの意味を理解し始めているのだ。一体それは何か。

日本の自治体で首長と議会の与党との癒着体制がで

きあがって久しい。このような状況の下では議会と行政との間のチェックアンドバランスの関係が存在せず、首長は議会の与党と事前に話をつけておけば、何事もOKであるし、与党議員も見返りに行政に対し種々の要求をすることが出来る。そこには市民の利益が介在する余地はない。しかも、問題なのはこれらの取引が市民の見えないところでなされ、議会での議論は儀式に過ぎなくなっていることである。

首長の眼を市民に向けさせるにはどうしたら良いか。簡単な話、与党派ご推薦の首長の首をすげ替えることである。

古都税からポンポン山まで この京都でも同じである

古くは昭和58年に始まり昭和62年に終息した古都税騒動だ。当時の今川市長は古都税を強行し、全与党が賛成した。しかし、仏教界の思わぬ抵抗で短期間のうちにこの条例を廃止し、与党はまたこれに賛成した。行政、これと一体となった議会、仏教界の争いは税金の原資である拝観料を負担する市民不在のままで進められ、その間隙をぬって怪しげな不動産屋が舞台に登場する一幕もあった。議会が正常に機能していればこのようなばかばかしい騒動は起こらなかっただろう。

最近では平成4年に京都市がポンポン山のゴルフ場

建設予定地を約47億円で購入した問題がある。この問題は住民訴訟となり当時の田邊京都市長に京都地裁は約4億6900万円を、控訴審の大阪高裁は何と約26億1200万円の支払を命じた。当然この購入は議会の決議で承認されているのだが、裁判ではこの議会の承認は議会与党派と市長との馴れ合いであったことが判明しており、大阪高裁は議会の議決について「当然なすべき実体的な調査や審議を尽くしていない」とまで言い切っている。背景に自民党の大物政治家の介在が噂された事件である。

市民が請願するには議員の紹介が必要だが、いつの間にか議員が行政の弁護に回って請願の内容に色々と干渉していることも今や常識である。陳情についてもかつては議員の紹介によることが多かったが、最近では余り役に立たないことが判り始めている。

私が関与している京都・市民オンブズパースン委員会の活動は、本来は議会がなすべき



市の不正な公金支出の追求を肩代わりしているようなものだが、裁判所が不正を認めた事案についてさえ議会が動いたという話はない。清掃局の時間内超勤の問題でも知らぬ顔である。

この京都は革新が強いということは全国的にも有名である。実際に昭和46年に当選した船橋市長までは社会党、共産党、民主革新会議が与党であった。ところが、船橋市政の二期目から自民、民社が対立候補を出すことを諦め、同市長の二期、三期の6年間は議会全てがオール与党という異常な事態を経験する。

その後、船橋市長の任期途中の死亡で今川正彦氏と新自由クラブの加地和氏との間で争われた際には、自民、共産を含む他の全政党が今川氏を支援するという奇妙な構造となり、昭和60年、平成元年の選挙では共産党が独自候補を出すことで与党から離脱し、また社会、社民連も独自候補を出して三極対立となったが、平成5年以降現在までの3回の市長選挙は社会党が与党入りすることで共産党対他の全政党という二極対立で行われてきた。

しかし、昭和60年以来、議会運営は共産党会派の要求をことごとく排除するということで他の政党支部は結束し、市長と与党会派との癒着は改善されることはなかった。

京都の歴代の市長は市の重職にあったものか、医師会からの出身者かどちらかである。現在の榎本頼兼市

長は大学卒業後京都市の教育委員会事務局に就職し、公表されている経歴を見る限り、教育長になるまで教育委員会から一步も外に出たことがないという純粋な役人上がりである。

与党会派が何故に榎本氏に白羽の矢を立てたかは何らの説明もなく、歴代の市長候補者が与党会派が操縦しやすいことを最大の基準として選ばれたとしか思えない。しかし、一方の共産党が選んだ候補者についてもその選定基準は明らかでない。私が理解できるのは平成元年に出馬した木村万平氏だけである。

そろそろ、京都でも

私たちは、そろそろこの京都でも市民主体の市長候補者選びをしたいと考えた。私たちというのは私と大阪成蹊大学の四方功一さんだが、私はオンブズマン活動で、四方さんは環境問題で長年行政や議会を相手に苦勞してきた間柄である。

平成15年4月15日に呼掛けることから始めて、「市長を選ぶ京都市民の会」が発足し、約30名の世話人の活動で2週間に一回の集会を開催するというハードスケジュールで市長候補の選定に入った。詳しい活動報告は別に掲載されているが、京都政治史上初めての試みである。9月8日に最終的に広原盛明さんという候補者にしぼられるまで、具体的な名前が途中で報道されることで迷惑

がかかることを配慮して報道関係者には、ご遠慮願ったが、出来る限りオープンに議論したつもりであり、この選挙過程に参加された多くの会員の方は満足しておられると思う。

この選挙過程に少しでもかかわった方は350名を超えたが、運動期間の制約と宣伝力の不足からこの程度の方の参加しかいただけなかったのが残念である。

しかし、実際に参加していただけなかった方からかなりの期待の眼を向けられていることが分かったし、約140万円のカンパも集まり、まずまずの出だしであった。何と言っても、私たちが市長になって欲しいという人が候補者として出馬してくれることになったのだ。政党の信託ではなく市民が信託できる候補者が現実のものとなった。



無党派、市民派ということ

私たちは候補者の選定にあたって無党派、市民派とい

うことにこだわった。政党のひも付きでないということだ。地方自治では、国会レベルでの政党の論理、政党間の争いは無縁である。この点について、私たちの候補者は、いずれの専属歌手にもならないと明言した。

市民派というときには、市長になってからも市民の目線を失わないというもう一つの意味がある。かつて市電廃止反対の住民に深く関わった経歴をもつ私たちの候補者はこの点も期待できる。

私たちはまた、私たち市民が選定した市長が実現することは、市の行政を明るく身近なものにさせ、市と市民との一体感が増幅し、京都市全体が活性化することになるのではないかと夢見ている。

平成12年の市長選挙の投票率は45.9%、実に54.1%の市民が投票していない。この中に、政党同士の二極対立に嫌気をさして投票しなかった市民がどれだけ含まれているのか、少なくとも私の周辺にはそのような意図的サボタージュをした者が多い。

無党派、市民派を標榜する私たちが選んだ候補者に、これまでの投票サボタージュ市民がどのような反応を示すことになるのか。この候補者については、いち早く共産党もその一員である市政の会が立候補要請をするとか公表したことが、どのような影響を与えることになるのか。いずれ、来年の2月の選挙の結果で明らかとなる。

うな動きを待っていたという声とともに、京都のような共産党が強い地盤で何ができるかという厳しい批判の眼があることも事実です。

私どものスローガンは、「市民のための、市民による」市長候補者ということなのですが、もう少し具体的に言えば、政策論はさておいて、政党公認、推薦でない候補、政党に縛られない候補を出したいということに最大の意味があると考えています。言い換えれば今、全国の自治体で続出している「市民派」、「無党派」の候補ということになるかと思っています。これまでの政党対立の市長選挙から脱却したいということであり、そこから市民本位の市長を生み出せるのではないかと考えているのです。

しかし、この「市民派」、「無党派」という言葉は、耳障りの良い言葉ではあるのですが、使われる立場や場合によって極めて色々な意味を持っています。「市民派」、「無党派」とは現在の社会状況の中で、なにを意味するのか。そこから話をすすめたいと思います。

今井 東京で、あるシンポジウムがあったとき、自民党から川崎市議選に立候補した若い男性が「私は自民党員だけど川崎市民、だから市民派だ」と言ったんですよ。これは違います。政党や労働組合に所属して、その指図を受けるのではなく、どこにも囚われないで、自分で判断し自分の意思で行動し自分で責任をとる人たちのことを、そして具体的に行政参加、行政監視を行なってい

座談会

“市民派”の声は遠吠えか。

“市民派”による首長選挙は関西では神戸、徳島、明石と負け続けている。尼崎は唯一の例外だ。しかし、それでも何故全国的に“市民派”の政治化が進んでいるのか。京都ではその可能性はあるのか。

この興味あるテーマの座談会に参加したのは、市民運動から元逗子市の市長を2期務め、現在龍谷大学で教鞭をとられている富野暉一郎氏、フリージャーナリストで盟約ファイブの企画・運営委員である今井一氏、京都市長を選ぶ市民の会の代表である四方功一氏（大阪成蹊大学教授）の面々である。司会は同じく京都市長を選ぶ市民の会の代表である折田泰宏氏（弁護士）。



司会 折田泰宏

環境、消費者問題など、日本でもっとも市民運動が盛んな京都。しかし政治はきらい？

折田 京都の市民運動は、一見盛んに見えます。環境問題、消費者問題など、個別の市民運動は日本でもっとも盛んなのかもしれない。それに研究者、学生がからんだかたちで、活発に動いています。NPO法人もたくさんできています。しかし、それが政治とからんでくることは極めて少ない。その理由は良く分りませんが、市民運動まではするけれども、政治嫌い、政党不信、政治には関わりたくない人たちが多いということです。

市民運動の目的を達する手段として、政治の外で、署名運動や裁判など直接行政にプレッシャーをかけていくことで目的を達しようとするので、議会を利用するということ発想は余りない。自治会や住民運動では、議会に請願とか陳情はするけれども、これがまたうまくいかない。京都のように行政と議会が癒着しているところでは、議員は行政の意向を受けて、逆に住民運動側を説得にかかるといふ機能を果たしているのです。

そのような意味で、今回の「市民の会」の運動は、直接政治に関わるという意味で、京都の市民運動の歴史の中では画期的なことなのですが、右からも左からも、また既成政党からも、市民運動団体からも、様々な意味で、その意義が問われています。良くやってくれた、そのよ

る人たちのことを私たちは「市民派」と呼んでいます。

折田 無党派との関係ではどうでしょう。

今井 無党派というのは支持する政党が無い人のことだけで、同じ無党派といっても行動する「市民派」もいれば、何もしない人もいます。元々、市民とはローマ時代に奴隷と対比する存在として使われたのですが、市民というのは、さまざまな市民的・政治的権利をちゃんと持っている人、ドイツなどヨーロッパでは住民という言葉と市民という言葉を使い分けていますよね。

折田 「市民派も政党ではないか」という意見があります。

今井 政党には綱領があつて、政党に入つた人はその指令と命令に従うという前提がありますよね。でも、市民派は違います。住民投票を立ち上げていった新潟県巻町でも、徳島県でも誰かが誰かに命令して、それに必ず従うという仕組み、約束は一切ありませんでした。

政党はある意味、軍隊に似ていて、中央集権的に上の命令に従う、多数決で決まったことは従えとい





今井 一さん

住民が、行政や政府に依存しては、国がもたない。住民がやるべきことは住民がやって、政府がやるべきことは政府がやると、効率的なやりかたをする。政府はサービ

富野 しかし、ヨーロッパは80年代から不景気になって財政がいきづまってくる。スウェーデン、イギリス、イ

財政が破たんすると、政党を通した間接的民主主義が機能しなくなる。自分たちで：

金と力があった。われわれがもっている市民像というのは、もとはといえばブルジョアジーのイメージですね。そこで問題が発生する。日本人がもつ市民像は崇高な概念で、自己決定、自己判断できる、社会的に自立しているという存在なんです。日本のインテリはそのイメージで輸入してしまった。今、そういう理想的な市民は、日本だけでなく、ヨーロッパにも世界にもありえない。

ヨーロッパでも福祉国家になって、市民は自立心を失ってしまった。フランス、ドイツでも、市民は社会全体のことなど考えていない。現状はどうかといえば、福祉国家になって行政依存になる。税金を納めているから、これだけのことをやってくれと要求するんですね。

「市民」とは、自己決定、自己判断できる、社会的に自立しているという存在です。

あのときのことか今でも忘れられないです。豊郷小学校では、統一候補を立てないといけないということから、革新系のグループが保守系の人に譲りましたね。市民がどんどん賢くなっている。

「賢者は愚者に譲る」

あるいは、81年8月ストライキを終えたくないグループとソ連を刺激すべきでないというグループに分かれて48時間もめ続けたとき、最後に、数学者で自治労組「連帯」の幹部の1人がワルシャワの交差点のまん中で立ち上がってこう言いました。

折田 たしかに、そうですね。今井 自発的に共通の価値観をもって、今これをしなければならぬと市民が立ちあがったとき、尋常ではないエネルギーが出てくる。僕は東ヨーロッパでこれを体験しました。89年11月、チェコの「ビロード革命」のとき、誰が命令したわけでもないのに連日30万人の市民がバーツラフ広場に集まって体制の転換を求める。

う。従わないと、政党としての体をなさない。しかし、市民派の集団では、リーダーであっても参加している市民に命令はできない。お願いをしたりされることはあっても、命令したりされたりすることはない。それが市民派の強いところでもあり、弱いところでもあります。折田 たしかに、そうですね。

富野 私は市民という言葉は整理して使った方がいいと思います。日本人は市民というとき、ヨーロッパのイメージで使いますね。日本に輸入されたときどういう意味だったのか。また、現在、市民はどういう意味をもっているか。

ヨーロッパの市民の概念は公民・パブリックシチズンで、公民権をもった人が市民なんです。

今井 そうすると、在日コリアンは市民でない？

富野 その意味ではまさにそう。ブルジョワジー革命後、制限選挙になって、その選挙権をもっている人がシチズンなんです。もともと政党とかは関係のない概念ですよ。国民国家ができたときに、国民主権の公民権、選挙権をもった人を市民と言ったのです。

折田 女性も選挙権がなかったときは、市民といわなかったのですか？

富野 そうですね。基本的には政党に所属しているかどうかは関係ない。ヨーロッパで、貴族の階級制がこわれたときのブルジョワジーが持っていた概念がパブリックですね。近代的な意味では、政治参加の権利をもっている公民を市民という。その市民は、現代ではヨーロッパにしろ、アメリカにしろ、政党に所属しているのが普通です。

今井 請求権とかをもっていないとただの住民になる。

富野 ブルジョワジーは、革命によって王政を倒すだけの

スをどんどん切っていった。そのなかで、例えばイギリスでは福祉を切った結果市民が再生するんですね。一度福祉国家を経由して死んだ市民の概念が、財政危機になって、自分たちがやらなければ、という状況になって再生してきたんですよ。今、ヨーロッパでは市民の動きが活発になってきています。

日本の構造は中央集権で、経済成長が先に来たのです。福祉国家にはなりきれなかったけれど、政府に依存したほうが早くものが解決してしまう。結局、官依存型の住民が大多数を占めている。だから、いつも市民運動はマイノリティ。社会が豊かだから、全体的な解決は政府でできてしまうという幻想ができる。そのような状況のなかで、市民運動が大きくなることはあり得ない。それは世界に共通することです。

しかし、今なぜ日本で、市民派、無党派なのかといえば、財政が破たんしているからです。政党政治、国家財政は市民を支えきれなくなってきた。まさに80年代にヨーロッパで起こったことです。だれも頼りにならない、特に、小泉内閣になって痛みも見えて来た。今までの組織や国に頼っても無駄ということがわかってきた。バブルがはじけたところは公共事業をひっぱってきたりしましたが、今は全部おちている、強い政治家、組織にたよって利益を得るのはもうあきらめて、組織でないと行かないところ、シシコ自己実現ができないかとなって行く訳です。



そこで、例えば尼崎市の市長選挙のように、投票率が下がっても市民派が勝つという現象が起こる。従来の財政や行政に支えられた生活では駄目だということが国民のなかに浸透してきて、自分たちでやろうと。政党を通じた、間接的民主主義が機能しないからこうなった。既成の組織ではないなにかを探していかなければならないと考える。それが、市民派、無党派なんです。

「この子をどう育てるか」生活としての政治は、大きな政治と結びつける必要はない

折田 今回の動きは、60年代、70年代の環境問題などのオルタナティブな市民運動と連動しているとは言えないのですか。

富野 基本的にはちがうと思います。そのころは、自分たちの要求を政党によつて解決しようとした。政党の系列のなかでコントロールされながらの市民運動だった。今は国家が機能しないから、政党のなかで運動しても解決にはならないのです。

折田 革新政党と結びついていたということですか。

富野 そうです。当時は、社会の危機的な問題は、今の政府では解決しないので、もう1つ別の政府を作つて変えようと思ったのです。都市から国へ、地方から国への運動が一貫してあったので、市民運動を政党が系列化したほうが国の財政や投資の再配分を要求できて有効だ

実現できない。その意味では、個人がもっている価値観をつなぎあわせることによつて、ある方向性がでてくるということを理解して行く必要があるのではないか。それは多分、生活としての政治、カルチャーとしての政治ですよ。大政党に関わると、自衛隊、憲法をどうするか、イデオロギーの政治になっていく。生活の中の政治は、この子をどう育てていくか、森がなくなってしまうがどうしたらいいか、行政が変なことをしている、自分たちの税金をどう使っているのか、など身近なところから政治に関わることなのです。はじめから大きな政治に結び付けて行く必要はないのですよ。

中央集権になれた構造を
自覚的な転換に促していけるのか

四方 都市について研究するなかで見えるのですが、自治都市の1つの力として商業活動、サービスが都市住民を形成する、その過程のなかで、自ら手を携えて、身の安全と商売の自由を獲得して都市を作つて来た。

つたのです。

今、パイ自体が小さくなって、政党、組織に対する忠誠心もおち、投票率も下がっています。生活レベルの人權とか、環境とか、個別課題を横断的につなぐのはイデオロギーの政治とは別の次元になってくる。

折田 これからは、どのような方向にいくでしょうか？

富野 まず、無党派の意味をしっかりとらえる必要がある。無党派ってなんだろうと考えると、2つある。1つは、政党ばなれという無党派。もう1つは、違う政治を作つていこうという無党派ですね。これらを市民派と言いたくなってしまうが、それでは用語をまちがえてしまうと思う。

無党派には方向が2つある。1つは地域政策集団としてローカルパーティ、新しい政党をつくつていこうという方向、もう1つは政党はぜったいいや。個人個人で状況に関わりたいたいという方向です。今はこの2つが混在していて未成熟と言えます。しかし、景気が悪くなつて、政党や組織は駄目だということまではわかってきた。

それではどういう形でやるのか、政策集団や新しい価値観をつくつて、新しい政治をつくつていくという動きがあると同時に、大状況の政治をいっさい拒否したいという気持ちも一定あるわけです。しかし現実には、われわれは社会的な存在として生きているわけですから、民主主義の中では一定の勢力を獲得しないと目指すものを

ルネッサンスの大富豪がでてきた。そうなってくると、自治都市も崩壊してくる、みんなちよぼちよぼで、大した金持ちはいない。私有と公共とがせめぎあうなかで、公共性や市民の精神が生まれてきたんですね。

日本の場合、大和朝廷以来、中央集権がずっと続き、江戸幕府が崩壊したあととも富国強兵で中央集権が継続、戦後は、新しい経済復興の中央集権になっていく。

市民の芽生えとしての地域性、地方分権は、一億総中産階級というときにチャンスがあるかと思つたが、右肩上がりの経過の中で、我れ先にとなつていて形成できなかった。経済が下降してきて、2極分化、1極はひとにぎりの金持ち、大多数は生活が困つてくる。みんなちよぼちよぼの金持ちだったのが、みんなちよぼちよぼの貧乏になつてきたときに、中世ヨーロッパのちよぼちよぼが芽生える可能性があるのかとらえています（笑）。

富野 ヨーロッパは80年代に景気がわるくなつて市民の公共性が回復する契機があつた。しかし90年代後半から景気が良くなつてきたちよぼちよぼ政府依存が復活する。日本の今の状況が80年代のヨーロッパと似ていて、まさにちよぼちよぼになつて、自分たちでやらなければという意識に変わつてきた。

四方 自覚的な転換はむずかしいですね。日本では、お上の権力構造になれてきて、1度も中央集権からはずれたことがないわけですね。地方分権の波が成熟しきれな

いなかで、自覚的にうまく切り替えられるか、うまく促していけるか。

水と緑を守る連絡会議は結成して17、8年になります。近江の水の運動をやって20数年、創立メンバーがかわらないんですね(笑)。全然、若手がでてこない。私も30代の後半だったのが今は還暦ですから(笑)。

地方自治での運動は国政レベルと基準をかねて、「なぜを問わない」

今井 住民運動の現場へ行ってみると、保守派の人が運動を立ち上げリードしている場合が多い。70年代においては住民運動をやっている人々は社共両党と組んでいましたが、最近はずっと違ってきている。

富野 14年前の逗子市は豊かな人たちの運動だったんですね。生活が高度化してくると、人間は経済だけでは生きられなくなってくる。生き甲斐であったり、カルチャーだったりするわけです。ある意味で日本はそういう域に達したわけで、政治の意味、運動もかわってきて、保守であろうと、革新であろうと、地域の生活を守るための運動にシフトしてくる。

今井 景気が悪くなると市民運動の力が衰退する、神戸



富野暉一郎さん

何故、議会、首長をとるという発想の市民運動が広まっているのか

今井 これまで市民運動は議会に対してよく陳情、請願をしてきたけれどそれは功を奏していない。最終的に自分たちの要求を通そうと思ったら議会の構成を変える、首長をとるという具体的な考え、目標、道筋をもった市民運動にしていかなければできない。極論かも知れないが、市民運動の鉄則は首長をとることであると思う。議会、首長をとるという発想の市民運動は尼崎市にできている。ついにその時代がきたのかなと思う。

四方 水と緑を守る連絡会議はゆるやかな連絡組織体としてきたんですね。完勝したとはいえないが、取り巻く運動は終結しているし、全体を集約すると良い方向にきていた。役割を果たして継続するかどうか考えて、もし継続するならゆるやかなだけでなく、一歩ふみこんで積極的な活動をしなれば継続の意味がない。それ何か、それは政治に対しての明確な役割をもつべきだと思う。それが、今回の折田さんの呼びかけに、水と緑を守る会が応じていくという経過になったんです。

今井 神戸市の直接請求(住民投票)運動があつたときに、市民と政党・労組などの連合チームであった住民投票の会のみなさんが有権者の27%にあたる30万超す署名を集めました。予想通り議会で否決されました。その直後の

の市長選挙は、神戸空港は一番の争点にならなかった。景気をよくしてくれる人がいいとなる。景気があんなに悪くなっていなければ、市民派に可能性があつたかもしれない。徳島も知事選は勝つたと思う。

折田 市民運動がローカルパーティを作るまで成長すると、景気不景気と関係なく継続して行く。なぜローカルパーティがでてこないのでしょうか。

富野 逗子の運動は、米軍住宅に反対するという目的だけで市民が集まった、「なぜを問わない」運動だった。なぜを問うと、安保に賛成か反対になつて路線闘争でみんなが消耗してしまう。

「なぜを問わない」、そうでないと地域では活動が幅広く展開できないというすごい実感があります、この運動の限りにおいては、国政レベルは関係ないという意識でしたね。

四方 「なぜを問わない」は、いいですね。

富野 地域の運動のかぎりにおいては、国政に関する意見の相違はどうでもいい。地域独自の価値観で展開するわけだから、路線闘争はやらないほうがいい。

折田 国政レベルと地方自治は、基準をかえる必要があるということですね。

今井 神戸空港の問題でも、国のことは国のこととして、神戸空港のことでは一致できる政党所属員がいっぱいたかもしれないですね。

ことですが、徳島では議会の否決に対してただちに議会の構成を変えようと市議会選挙に参戦するという方針を決めました。ところが、神戸の場合、その答えを出すのに2カ月もかかった。結局分裂。市民派の一部の人は統一候補を出して議会の構成を変えようとしたが、共産党が住民投票の会は直接請求をする運動体であつて、選挙をやるための組織ではない。選挙はわれわれ政党に任せなさいという態度で、実際市民派のなかにも共産党に同調する人が相当数いたこともあり、分裂したわけです。選挙活動に踏み切れなかった人たちの発想は、自分たちは市民運動をしている、政治運動をしているのではないということです。

最近、大阪のシンポジウムで国立市長の上原公子さんが、「私たちがやっている市民運動こそが政治運動。ダム、マンション、景観保全の運動はすべて政治運動である。それは分けてはいけないし、私たちは政治運動をしなければならぬ。それを分断して違つてきたのが、今までの市民運動のあやまち。だから首長をとろう、議会を変えよう。私たちは政治と運動を一切分けて考えていない」と言っておられました。

富野 逗子の経験からいうと、市民運動としての守る会(池子米軍住宅に反対して自然と子供を守る会)はリコールまでやりました。それは、議論の末にリコールまでは市民運動であるという共通理解を作ったからです。その理屈は、市民の90%が反対したのに、市長が国の決定



四方功一さん

を受けいれてしまったが、そのような市長はもはや自分たちの代表ではなく、市長でなくなった者をやめさせることは市民の義務であってそれには選択の余地がない。選択の余地がないことを市民が実行

することは政治とは言えないということでした。ところがリコールが成立して市長選挙になった場合はそれとは違って政治活動と考えざるを得ない。理由は、選挙の場合にはいろいろな人が立候補して、その中から市民がそれぞれ適任者を選択するという選択可能性がある行動であるから、それは政治活動と考えようというわけですね。実際に、逗子の市民はリコールまでは守る会で運動を展開し、リコールが成立した瞬間に、政治活動としての選挙を担う新しい政治団体（緑と子供を守る市民の会）をつくってその会が選挙を闘い抜いたわけです。逗子では生活と政治はわけたいという気持ちが強かった。

京都で真つ当な市長が選ばれて、「町を変えましたよ」と見せれば全国に連鎖的につながる

折田 今井さんは日常的な運動のなかで、思うようには「市民」化していかないという苛立ちがありますか。

今井 市民が悪いのではなくて、有効な受け皿を作っ

ている。そのなかで、京都はまだ政党支配が続いて、日本の全体状況から遅れてしまっているという市民に共通する認識という基盤がある。

折田 争点は政党支配もあるし、同和問題もあります。それぞれ日常生活に密着していないことが問題です。分る人には分るのですが。

富野 京都は日常生活で争うよりも、文化都市を軸にどこまでまちの将来像をゆたかに展開できるかが最大の課題ですね。世界に冠たる文化都市ですから、その方がイメージがはつきりする。私は京都は一つの世界として完結してきた世界でも珍しい文化都市であると思っていますが、それぞれの持つイメージをもとに文化都市とはなにかとの論争もできますね。

折田 そうすると、市長は文化都市に相応しい人になる。今井 大阪には、公務員に対する批判がすごくあります。大阪ドーム、ワールドトレードセンターとか、箱もの行政に対する批判もすごくありますよ。

四方 京都はゆっくりしているんです。ちょこちょこムダなことやって、ちょこちょこ良いことやっている。

今井 困りましたね（笑）。

折田 市の行政には、リーダーシップをとる人間がいな

いの問題です。京都の他の世界にはいずれにもリーダーシップをとる人間がいるのですが。

四方 行政がやらなくても、歴史と伝統がやってくれ

いない我々が悪いと思ってるんですよ。ちゃんとした受け皿を作れば、市民の怒りとかがエネルギーになって議会の構成を変えることができる、首長をかえることができる。エネルギーの発散の場を見い出して動いてくれる人がいるのですね。

少なくとも国政では難しいから、今は尼崎とが徳島など地域で実現しているような受け皿を作らないと。ぼくらが未熟なんだろうと思う。「一緒」探しをしないといけないのに、「違い」探しばかりしている（笑）。「なぜを問わない」は、そのとおり！（笑）とりあえず日本のおかしさを変えるために、大きな受け皿をつくらないため。京都も首長をとって挑戦をしたらいい。

四方 大きな怒りが転換になるのだけれど、京都市民が何に怒っているのかわからない（笑）。総合的にみれば怒るべきだと思うけれど。ところが、京都には怒るほどのテーマがない。

富野 政党支配という問題がある、なんでいまだに政党支配が残っているのかという怒りはありますよ。

四方 その通りと思います。しかし、生活のレベルの問題と、政治は分けなれないといけないといわれたのですが、怒りは日常性のなかで起こってくる、それを政治に転換できるかどうか。政治のテーマでもっていつて、京都市民に訴えられるかが問題です。

富野 日本全体の状況からいっても政党はメルトダウン

る（笑）。

富野 京都の芯が何であるかをきちんとやらないといけない。これからの世界に新たな価値を提示することができる京都を形成するために必要な京都の芯とは何であるのか、それをうちだすことが求められているのが京都の市長選ですね。

今井 住民投票条例制定の直接請求はなかなか通らないけれど、96年の巻町から1年少し前の米原までは13件の住民投票しか行われていなかったのが、それ以降55件を超す住民投票が行われている、それまでは後進国だったのに、実施件数だけで言うなら今や世界1の住民投票活用国になっている。

僕らは事例を見せないといけない。やればできる、こんなに変わるとなれば、連鎖反応として継ぎが続く。まず京都で真つ当な市民派の市長が選ばれて、こんなふう

に町、行政を変えましたよと見せれば1年半後の神戸選につながる、全国に連鎖的につながるっていく。

もっと言えば、大阪の市長選が11月、大阪知事選が2月なんですね。京阪市民連合をつくる。京都と大阪の市民派のみなさんの基本的な姿勢は変わりはないと思います。他府県の運動員が入ってもいい。神戸にも入ってもらって、政治版3都物語が作られればいいですね。

折田 何かが起きると期待しています。

編集部 今日は、ありがとうございました。



ドキュメント 「京都市長を選ぶ市民の会」 — 広原盛明氏は、このようにして選ばれた

発足から選定まで

京都市では、来年2月に実施される予定の市長選を視野に入れて、これまでになかった新しい動きが始まっている。「市民が信託できる市長を市民で選びたい」という個人の思いをつなぎあい、新しいネットワークを生みながら、これまでのように政党にまかせるのではなく、民主的な手続きで次代の京都のまちづくりのリーダーシップをとる市長を選んでいく、という動きだ。

この取組を始めたのは「京都市長を選ぶ市民の会（以下「市民の会」）であり、呼びかけ人・代表は折田泰宏氏（京都・市民・オンブズパースン委員会）、四方功一氏（京都・水と緑をまもる連絡会）の両名だ。

この会は団体や政党により運営されているのではなく、あくまでも京都のまちづくりに関心を持っている市民によつて運営され、個人を単位に会員が構成されている。

従来の市長選は、政党間の調整により候補者が選ばれることが多く、市民はその過程を知ることができなかった。しかも70年代の市長選からは次第に政党間の

二局対立の選挙となり、市長選に対する市民の関心も薄れ、70年代から投票率は50%を越えたことがない。そして市民が市政に対する関心をも失っていく中、「政党や議会が信託する市長」が京都を支配し続け長くは蓄積された利権が温存されている。

このような現状に対して、本来のまちづくりの主役である「市民」が行動を起こしたのが、今回の取組である。折しも、現在は社会のパラダイムの転換期にあり、平成12年4月に地方分権一括法が施行され、①国と地方自治体の役割分担の原則、②機関委任事務制度の廃止、③国の関与の見直し、④権限移譲の推進、⑤必置規制の見直し、⑥都道府県と市町村の関係の改革、⑦地方自治体の行政体制の整備・確立、の取組が進みつつあり、分権社会に向けた枠組みが整いつつある。

また社会の成熟化と共に、不特定多数を対象とするインフラ整備から、多様化した市民ニーズに応える施策への転換、個々人の幸せの実現の機会の創出等、行政施策

やその役割そのものが見直しをされ始めている。

これは近代社会に入ってから初めての局面であり、京都市はこれまでとは異なる地方自治を推進していくことが求められている。つまり京都市においても、自治体として自立し、住民との協働により施策を展開していくことが必要不可欠となっている。

一方、このような取組を展開するには、行政の変革だけで推進できるものではない。市民及び住民1人ひとりの「個人」が確立し、行政依存型ではなく、主体性と責任を供えた市民社会を構築していくことが求められる。

京都は1200年に及ぶ歴史を有する希有の都市であるが、都市の歴史と共に住民の自治の歴史も持つ都市である。住民の活動と折々の選択によりまちが形成され、それがまちとしての個性を創出していた。そのような「遺伝子」は現在にも継承されており、京都市内では非常に多数のNPOやまちづくりを考える団体が存在しており、全国から注目を集めている。

今回の「市民の会」の動きは、このような時代背景、そして京都という基盤を受けた「必然」ともいえる取組だろう。今回の一連の動きは、このような市民社会を実現できる市長を選ぶ、というものである。

「市民の会」が特徴的なのは、政党や団体ではなく個人による参加を前提としていることであり、利害等にとらわれない個人の意志と善意を紡ぎあうことで活動

が展開されていることだ。個々人の幸福を実現できる京都のまちづくりに向けて、21世紀型の新しいパートナーシップを構築することを目指す壮大な試みだ。一連の取組を通じて、市民の役割と責任の再評価を行い、新しい公共性の構築に結びつくことを期待したい。

以下の報告は「市民の会」の発足から候補者が選ばれるまでの「市民の会」による記録である。

5月24日(土) 京大会館

市民が選ぶ市長候補者選び プロジェクト 準備会

4月15日の記者会見に続いて5月24日、この取組を実現するための組織の設置に向けた準備会が開催された。会の代表からは、これまでの京都市長選に関する構造の分析が話され、「現在の市長は、政党が信託している。しかし本来は、市民が信託すべきもの。しかし、そのための手続きが無い。今回の取組は、この新しい手続きの確立に向けた取組」と、会の趣旨が説明された。また、会の運営方法の案として世話人会を設置し、①PR・会員拡大部会、②候補者選考基準案作成部会、③候補者募集方法案作成部会、④候補者選考方法案作成部会、の4つの部会に分かれて、具体的なプロセスを作っていくと発表した。

この会には、市民派の地方議会議員として活躍して

いる箕面市市会議員の増田京子氏、徳島県県会議員の豊岡和美氏二人をゲストとして招いた。

増田氏は「市民派とは何か。無党派と市民派は違うと私は考えている。最近では多くの人が市民派を名乗っているが、私は同じ市民派でもその違いを出していく必要を感じている」と、市民派議員としての哲学や取組について話した。昨年の箕面市の市長選では市民派の市長を実現させるために取り組んだ内容や、次点で落選した経験から学んだことなどを紹介した。

豊岡氏は、徳島県の知事選挙での経験を報告した（詳細は40頁参照）。徳島県では1999年に吉野川に可動堰の計画に対し強力な反対運動が展開されたが、中止には至らなかった。このため、事業の是非を問う住民投票を実現し、計画を停止させた経験がある。「この取組の中で、市民に意識が芽生えた」として、任期満了で知事選を迎えた時、勝手連県民ネットワークを作り、市民派の知事実現のために取り組んだ。この時は成功しなかったが、翌年の4月に知事が汚職で捕まり、再選挙が行われた際にも勝手連を再結成し、市民派の知事を登場させることができた。その後、議会が知事に対して不信任を決議して、再選挙が行われた際には3千票の僅差で負けてしまった。

ゲストの生々しい話題提供の後、会場の参加者を交えて意見交換が展開された。会場からは「私は学生だが、何ができるか」という質問があり、「何でもできる

と思う。1人の参加でも非常に助かる。思いを持った人を掘り起こし、つながって欲しい」「今回は取組そのものを盛り上げていく必要がある。韓国の大統領選では、若い人たちの間で、インターネットを通じて盛り上がっていた」とのメッセージがあり、「徳島では、可動堰反対という論点があったが、京都市では何を論点とするのか」という質問に対しては「具体的な論点のもとに賛成／反対というわかりやすいが、その論点がない京都ではまず仕組みを作っていくことに意味がある」とのアドバイスがあった。

また市民の会の参加資格や運営方法、どのような人物に市長となって欲しいかなどの意見や提案が出され、活発に意見交換が行われた。

6月8日(日) 京大会館

ワークショップ

「私たちが求める市政と市長」

5月24日に開催した「京都市長を選ぶ市民の会」の準備会を受けて、今回の取組に関心を持つ会員、及び京都で様々な取組を展開している会員が3つのグループに分かれて、「市長像」「望ましい京都の姿」について、円卓で意見交換が行われた。

意見交換の発表の概要は以下の通りであった。

【市民が信託できる市長】

リーダーシップをとって行動できる人、平和への舵をとれる人、社会保障を重視する人、いい意味での改革をしてくれる人、市民の意見を聞ける人、弱者の立場に立てる人、汚職をしない人など、市長が備えるべき資質について様々な意見が出された。市民が市政に参加できるように工夫も必要で、昼間に参加できない人には夜に参加してもらうなどの仕組みづくりが必要という意見と共に、市長を選ぶだけでなく、市長の取組をバックアップできる市民となるべきだ、との市民の責任についても言及された。

【京都はどこなまちになって欲しいか】

文化・歴史・学問のまち、平和を実際に発信できるまち、自然のエネルギーを発信できるまち、という様々な都市イメージについて出された。京都の良さを京都の人は見失っている、それをまず見直すべきという意見も出された。

具体的な提案としては、市内中心部の車の進入を禁止するなどの措置をとり、安心して歩いて暮らせるまちの実現をする、というアイデアも出された。

意見交換では、重点的に京都市の財政問題や同和地区が抱える課題について意見交換が展開された。「京都市の累積赤字はどんどん増えており、財政問題に真っ向から

取り組んでいく必要がある」「財政の問題については、法律的にすぐに変えるのは無理だが、運営上でシステムを変えることはできる。合理化を図ることは可能」という具体的な方策についてのやりとりも展開された。

また「利権に関する様々な問題は、市長や議員だけで解決する問題ではない」「市長は人的な利害関係が無い人になって欲しい」という人物像についての意見も出された。

この場で意見交換されたことは、候補者を選定していく際の基準に盛り込んでいくこととなった。

6月22日(日) キャンパスプラザ4階

「京都市長を選ぶ市民の会」

発足集会

有志の世話人により発足の準備が進められてきた「市民の会」の発足集会が6月22日に開催された。

第一部の発足集会では、これまでの経過報告、会則案の提案・承認、役員の選定が行われ、会の名前は正式に「京都市長を選ぶ市民の会」と決定し、折田泰宏、四方功一が代表に選任された。

第二部では、市民派のまちづくりに向けた取組を展開してきた、神戸市の中田作成氏、明石市の松本誠氏をゲストに迎え、話題提供が行われた。(神戸市、明石

市の取組は36頁、37頁参照)。中田氏は、これまで神戸市長選について取り組んできた経験を紹介した。同氏は市民派の市長を実現するためのサポーター役として活躍してきた人物である。「京都の会に伝えたい一番の教訓は、神戸では、候補者が乱立してしまったこと」と述べ、神戸では、市民派の候補者擁立に2つの団体が存在し、選ぶ時点でバラバラの行動となってしまう経験を経て話した。「神戸では、明るい芽も出てきている。大学生を中心とした取組が生まれ始めてきている」「京都は、非常に用意周到で取り組まれているので、期待をしている」とエールを送った。



松本氏は、元神戸新聞の記者で、昨年の秋から「アーバンネットワークをつくらう」と呼びかけ、市長選を含め様々な市民派の行動を調査、応援をしている。明石市の市長選では、同氏は市民派としての市長を誕生させるべく、様々な活動を行う中、メンバーからの推薦を受けて自身が立候補することになった経緯と想いについて報告した。

同氏は「政策は市民が自分たちの想いを実現するた

白井氏は昨年の12月に尼崎市長になり、現在は市民の目線にたった市政にするための様々な取組を孤軍奮闘で進めている市長である。

同氏は「市民が市長を自ら選んでいくことを目指して会合を持たれていることは素晴らしいと思う。このような流れを広めていけば、日本も変わっていくと思う」と市民の会の取組について評価した。

白井氏は尼崎市の10年前の市会議員汚職による議会解散の際に市会議員に立候補・当選し、「市民の目線で取り組もう」と一貫して主張してきたが、「心身共に疲れ果てた。もう一度地域にもどり、地域活動からメスを入れた方が近道ではないかと考え、3期目の立候補はしなかった」が、同期の議員や様々な団体やグループから「市長選に出ないか」とエールをもらい、市長選立候補を決断をしたとのことであった。選挙戦では市民の目線による「10の約束」に賛同した人々が集まり、それぞれが役割分担をして活動を展開し、結果現職を破つての初当選を決めた。「選挙戦は楽しかった。これをしなければ知り合えなかった人の輪やネットワークが広がった。そして色んな人が頑張り、誇りに思える選挙だった」、「政党でなく、市民が市政を作っていくのはこれからの新しい流れだろう。皆さんが、京都の新しい動きの鍵を握っている。ぜひ、京都・尼崎の関西から政治を変えていきたい」と語った。

意見交換では、世話人会が作成した「基準案」をもとに、

めのものであり、市長はそれを実現するためのコーディネーター」という哲学のもと、「選挙にも市民が参画することが大事。市民参加の行政を明石から立ち上げたい、発信したい」という想いを形にするための取組を展開したと述べた。結果は落選であったが、その原因は「組織体制の確立の遅れと市民運動活動と選挙活動は全く違うことの認識不足」と分析した。

意見交換では、「今回の取組は、いままでと違う選挙。特定の思想・団体に偏らない人を市長に選ぶことを原則にしていきたい」「選挙は個人の投票で決まる。ひとつの考えを押し付けることはしない。市民が市政の将来をどう考えるか。その考える機会をつくるのが今回の重要な取組の意義ではないか」という意見が出され、活発な意見交換が展開された。

7月13日(日) 京大会館

基準案検討集会「市民が求める市長像を考える集い」

「京都市長を選ぶ市民の会」が発足して初めてのこの集会では、京都市民が求める「市長像」についての意見交換が行われた。ゲストとして、現尼崎市長の白井文氏を招き、同市長から尼崎での取組について話題が提供され、その後意見交換が展開された。(尼崎市の取組は39頁を参照)

市長を選考する基準案について議論された。基準案が抽象的であることについて「もう少し具体的な政策内容を考えてはどうか」という意見に対し、「具体的な政策を考えるのは候補者の仕事であり、私たちは市長の資質を判断する基準にすればいいのではないか」「共に考える」という姿勢さえあれば、個別の施策を作る際に市民参加で具体的な政策を検討できる」「この人なら何かしてくれる、という人を選んで欲しい」と、さまざまな議論が行われた。

「名乗り出る人を待つのか。あるいは会から人を捜すのか」という質問に対しては世話人会から「公募では、自薦・他薦の両方を公募する。リーフレットを見て、市民の会の取組に賛同して名乗り出て欲しい」との方針が提案された。

●選定基準の内容

市民の会では毎週木曜日に20名を超える世話人が集まり、募集方法や選定基準等について議論され、選定基準については、この世話人会での論議と集会での意見交換内容を踏まえて確定された。選定の基準の全てを貫く視点としては「政党でなく市民が信託できる個人」であることが重要であるとされた。

つまり、候補者選定の段階では、具体的な課題について考え方を逐一チェックするのではなく、「市民と共に考えて行動する」という資質を備えた人を選んでいくことが重要とされた。

市民の会で確定した選定基準は、以下の通りである。

〈市民が求める市長像〉

市民とともに歩む 勇気ある市長

〈基本姿勢〉

徹底した情報公開と、真の市民参加を実現する。

・情報を開放し、市民に説明する。本当の意味での市民参加のある市政にしよう。

・京都市政に巣くう利権を排し、公平・公正・清潔な市政を実現しよう。

市政に民主主義を貫き、地方自治を拡充する。

・平和、人権をまもることを第一に、性別や国籍・

民族の違いにより不利益をこうむることのない市政を推進しよう。

・市民の声に耳を傾け、市民の立場に立った市政をつくろう。

暮らしを大切にする視点で、京都の経済を建てなおす。

・京都に生きる中小零細企業を守り・育て、京都の経済を建てなおそう。

・京都市の財政を立て直すため、総ての仕組み・施策を見直そう。

京都の自然環境を、山紫水明のまちを後世に残す。

・京都の三山を保全し、美術・工芸・食品・観光など、京都の基幹産業を生み育てた自然環境を、市民の

共有財産として守ろう。

・京都議定書のまちとして、高い理念を世界に発信するような先進的

環境行政をすすめよう。

暮らしに文化が薫り、

伝統が生きるまちづくりを推進する。

・京都らしさとともに、美の力・技の力・知の

力そして人を育てるまちづくりをしよう。

・京都に常に新しい生命を吹き込んできた若者の力を大切にして、学問のまちを復活しよう。

このような資質を備えた候補者を募集していく活動は、

8月1日から開始されることとなった。

京都市政を考える

連続フォーラム

8月10日(日)・24日(日)・9月7日(日) 京大会館など

京都市政を考える連続フォーラムは、市長候補者の選定作業とは別に、京都のまちづくりについて京都市

第2回 8月24日(日) キャンパスプラザ京都

「京都らしい経済活性化への道」

第2回は京都らしい経済活性化に向けて、その方法を探るために、大阪市立大学の矢作弘氏と佐々木雅幸氏、吉忠株式会社社長の吉田忠嗣氏を迎えて行われた。矢作氏からは「定常型社会の構築」をキーワードとして、交通と商店街に焦点を絞り、まちづくりのあり方、人々の生活や価値観のあり方が報告された。

吉田氏は「世界の中の京都」という事実について、市民がきちんと理解し、行動する必要性を強調した。佐々木氏は京都は「創造都市」としての可能性を持っていると述べ、この可能性を実現するための課題などについて語った。

第3回 9月7日(日) 京大会館

「京都再生 車社会からの脱却」

第3回は京都の再生に向けた手法の一つとして交通政策に着目し、現状と課題の把握、具体的な施策の検討を目的に、京都大学の北村隆一氏、岡田知弘氏を迎えて行われた。

北村氏は「公共領域を創る」をキーワードに、都市での活動や生活と交通の関係を事例を用いながら、公共領域を創ることによる効果、京都における可能性などを語った。

民が主体的に考える学習の場が必要であるという考えから、企画されたものである。

第1回 8月10日(日) 京大会館

「今京都に何が求められるか」

— 環境・文化の視点から —

第1回は環境・文化の視点から、今京都に求められるものを幅広く共有することを目的として、国立市長の上原公子氏、龍谷大学の広原盛明氏、京都大学の植田和宏氏がスピーカーとなった。

上原氏からは、市民派の立場から選挙で選ばれた経過に加え、現在のミッション、まちづくりの模様などを紹介し、「本当のパートナーシップの構築のためには、自分たちの首長をつくらなければいけない」とエールを送った。広原氏は都市計画の現在を取り巻く状況として、21世紀のまちづくりは京都の個性を伸ばし、住む人誰もが安心して暮らせるための手法が必要だと具体例を交えて語った。植田氏は、環境行政、伝統産業、ゴミ問題を取り上げながら、京都を持続可能な都市としていくための課題を整理して話した。



岡田氏は京都における観光振興と交通政策の関係について、これまでの調査結果を用いながら報告した。

8月31日(日) 弁護士会館

「京都市長を選ぶ市民の会」 候補者選定に向けた取組

8月1日から始まった「市長になりたい人」「市長になって欲しい人」の公募に対して、8月末日までの締め切りまでに1名の自薦、7名の他薦の申し入れがあった。学者、弁護士、会社経営者、公務員、ジャーナリスト等多彩な顔ぶれの8名の候補者のうち、市民の会として誰を擁立するか。この選定を行うために8月31日、会員による「京都市長候補選考会議」が行われた。

この会議は他薦候補者のプライバシー保護のためマスコミには非公開とされた。

50人を越える会員の参加の中、それぞれの候補者の推薦人により、候補者の過去の実績、人柄、推薦の言葉が話された。それを受けて、会員による意見交換が展開された。この過程は「京都市長にはどのような人が相応しいのか」「京都にはどのような課題があり、どのような政策が求められているのか」「市民と共に歩む市長には、どのような資質が求められるのか」ということを改めて問い直し、参加者それぞれが考えることにもなっていたようだ。

「前向きに検討してもいい」という回答を得た他薦の2名を最終的な選考対象とすることとなった。そしてこの2名それぞれに対して9月6日、7日、市民の会の世話人との意見交換の場が設置された。

それぞれ約2時間に及ぶ意見交換の結果、2名とも京都市政の改革に向けて、改革する勇氣、豊富なアイデアと溢れる情熱、エネルギーを持ち合わせている素晴らしい人物であることが確認されたが、これまでの実績を踏まえて、最終的に広原盛明氏に決定された。

この選考は、市民の会の会員から選定の全権を委任された世話人により行われたものであったが、適任者なしとする1人の棄権をのぞいて、満場一致の決定であった。

〈9月7日最終選考日の世話人会の討議から〉

A 私たちの求めてきた「勇氣ある人」だと思う。
広原盛明氏を推したい。

B 広原氏は確かな人。自信をもって推せる。

F 市政の内実を聞いてわくわくした。先入観なしに考えて良いと思う。広原氏に賛成。

H 市民とともに歩むという意味で良しとする。男女共同参画と、高速道路の問題ではもう少しと思うが、広原氏を推したい。

I 理想を追うのはむづかしい。要は市民の意見を

約5時間に及ぶ意見交換の後、出席会員により投票で候補者を絞ることが提案され、急遽2名の選挙管理人を選出し、出席会員による無記名の投票が行われた。今回の投票は候補者を一人に絞ることが目的ではなく、市民の会が直接出馬要請を行う人を絞ることを目的としていたので、「1〜3名までを記入」という方式が採られた。

この投票の結果、4名の候補者に絞られ、1名の自薦者は投票結果にかかわらず、世話人会で直接本人と面談することが確認された。この5名から最終的に1名を選考する権限は世話人会に委託された。

この選考方法について、公開の場で候補者自身に京都のまちづくりに向けての想いと政策を語ってもらうべきであるとの意見が会員から出された。これに対し世話人代表から今回の選考は「出たい人よりも、出したい人」というスタンスを反映してか、ほとんどが「他薦による公募」であり、直接本人が出てきて、政策に関する意見交換を行うことは事実上不可能である、これに代替する機能を持たせるために、今回の「選考会議」が設けられ、推薦人による討論が行われ、会員が候補者の姿勢を判断する機会が設定されたとの説明がなされ、了承された。

以上の経過により絞られた候補者に対して、市民の会の代表者事務局が直接、本人に意向の確認を行った。その結果4名の他薦、1名の自薦の合計5名のうち、

聞いていっしょにつくってくれるかどうかである。その点を考えて広原氏を良しとする。

K 受けて立つことも可ということ、困難をいとわない姿勢に感銘を受けた。広原氏は京都に相応しい市長と思う。

L これまでいろいろな人を市長に想定してきたが、一点明確でない市政上の問題があった。広原氏の言葉に感銘を受けている。広原氏を推す。

N 男女共同参画も、その他の市政上の問題も、人権の問題も、在日の方の問題もすべて根はひとつ。基本的な人柄が大切。それさえ確かなら、多少不足することがあってもそれはおぎなえる。広原氏を市長候補として推す。

O ジェンダーには言葉不足だったかなと思う。人口

の半分は女性なのでここは大切。現市政の問題点に詳しいのでびっくりした。

P 市長はコーディネーター。
I。広原氏ならやれる。

Q 書斎の学者だと思っていたが、現場の人だった。地域に根ざした人だと思う。広原氏を推したい。

R 1人の人にすべてを期待



京都市長候補 広原盛明さん

PROFILE



1938年（昭和13）ハルビン生
元京都府立大学学長 龍谷大学法学部教授（平成15年10月末日退任）一級建築士、工学博士、技術士

「京都市長を選ぶ市民の会」は、龍谷大学教授の広原盛明氏を来年2月の京都市長選の候補者として選定した。

同氏は都市計画を専門とするすぐれた学者であり、京都市以外の多くの自治体で、都市計画審議会委員の要職を務める一方、住民・市民の視点を失わない現場主義の人である。以下は同氏がかかわった活動の代表的なものだが、市電廃止反対運動では日本共産党が支援したこと、共産党シンパと誤解されている。しかし、同氏は、特定の党派に与する人物ではなく、「市民の会」は同氏の是々否々主義と正義感に大きなポイントを入れた。

◇まちづくり支援活動

1968～1985年 当時、全国でも最も先進的なまちづくり運動を展開していた神戸市長田区丸山地区との交流支援にかかわる。

1969年～現在「公害のデパート」と

市政に正義と公正を
市民に誇りと繁栄を
取り戻す

いわれた神戸市長田区真野地区へのまちづくり支援にもかかわっている。同地区は現在もまちづくりを継続しており「日本最長のまちづくり」の地区として著名。

◇都市交通問題・政策への取り組み

1970～1978年 京都の市電をまもる先進的な市民運動に先頭に立って取り組む。この時から京都市行政から疎んじられるようになった。しかし、現在、路面電車が再び都市交通機関として脚光を浴びようになっている。

◇阪神・淡路大震災の復興支援活動

全国の都市計画研究者が連携して始めに被災地調査活動一員として参加すると同時に、真野地区に対する復興支援活動を全国に呼びかけ、真野地区が「復興モデル」として多大の成果を挙げる契機をつくった。また各種専門職能団体で結成した「阪神・淡路まちづくり支援機構」の成立にも貢献した。

●府立大学時代のゼミ生談

「先生はよく現場に出かけられ、地域の方と膝を交えてまちづくり談義を交わしておられ、NPO活動をはじめ社会的な活動も積極的にされていました。中学、高校、大学と陸上競技をされていて、スポーツマンだったと聞いています。実際、体力では30歳代の私でもかなわないかもしれませんよ」

するのではなく、市長は公正とか正義感で判断する人であること。市民のために考え、行動されるかどうかということではなければならない。それを見るのは公約ではない。その人がこれまでどういう生き方をされてきたかだ。広原氏を推す。

W 「市電を守る会」のこと。この市電は、いまのLRT、もう一度京都に夢をつくりたい。広原氏に市長になっていただきたい。

9月21日（日） 弁護士会館

「京都市長を選ぶ市民の会」

総会

市民の会は9月8日記者会見をして広原氏に市長候補の要請をすることを決定したことを発表した。次いで、世話人代表が広原氏に正式要請し、龍谷大学の了解を得られ次第正式表明をしてもよいとの確約が得られた。9月21日には、選挙に向けた具体的な行動を検討するための総会が行われた。最初に今回擁立されることになった広原氏から挨拶があり、「皆さんとともに、全力を尽くして頑張りたい」という決意表明があり、現在の心境や身辺の状況と京都のまちづくりが抱える課題とための政策の骨子を説明した。

総会では、市民の会を継続するか、候補者選定によりその目的を終えたとして一旦解散するかについて意見交換が行われ、挙手による投票で継続することが可決された。

その後の世話人会では、今回の選挙の大きな命題である「市民の手による京都市長の誕生」の実現に向けて、これまでにない選挙方法の進め方に関する意見交換が行われ、特定の団体ではなく、様々な個人や団体がネットワークを構築して支援する方法について活発にアイデアが出された。

9月29日（日） 鴨川河川敷

広原盛明氏出馬表明

爽やかな秋空が広がる中、心地よい風が吹き抜ける鴨川河川敷で、広原氏の出馬表明が行われた。同氏は多くの支援者と報道陣が見守る中、「私が長年暮らした京都の市政改革に向けて、市民とネットワークを構築しながら、全力で頑張りたい」と力強く表明した。その後会場を移して「ホテルフジタ」で記者会見が行われた。約150人の支援者と報道機関の前に、「抱負と決意」と「基本姿勢と政策フレーム」を発表。

（市民の会HP <http://www.kyoto-navi.jp/>）

長ぶ会人 都選民の 京を市世

は

こんな人たち

思いは1つ
京都に新しい風を
吹かそう

市民運動の経験さえなかった私です。そんなド素人の一市民が市長候補の選定の段階から参加して、市民の手で理想の市長を実現できれば、既成政党のしがらみのない、市民参加型の新しい地方自治のあり方をこの京都から、全国に発信することができそうです。

京都人は一見無関心を装っていますが、その実、昔から革新的で先取の気性を持った賢人たちのこと、必ずや来春には都大路に市民期待の大旋風が吹くのです。

市民の生の声を聞こうと耳をダンボにした「市民派市長誕生」という大きな変革。地震の予知が得意な「御



池のナマズさん」は、これから起る市民のための大きな動きをさて予知できているのでしょうか。

「学生、サラリーマン、リタイア：多様なメンバーが集まって」

「京都市長を選ぶ市民の会」の世話人の協議の場である世話人会は、発足以来、毎週木曜日に開催されている。世話人会は学生からリタイア層まで、サラリーマンから自営業者まで、老若男女問わない多様なメンバーで構成されている。「最初はそれぞれの思いやスタンスの違いから意見が対決することも多々あった」（事務局談）。

「新しい地方自治のあり方をこの京都から全国に発信」

藤田敏彦さん

これまで市政に関心はあっても政治的な活動などしたこともなく、

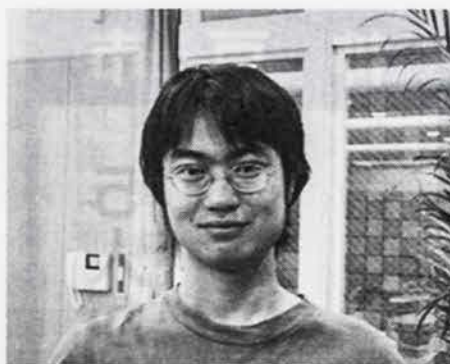
民主主義の深化を期待して

山本崇記さん

私は今年5月より「京都市長を選ぶ市民の会」の活動に携わっている山本崇記と言います。

現在、立命館大学先端総合学術研究科の院生をしています。同会の存在を知ったのは円山野外音楽堂で行われた憲法集会の日でした（5月3日）。

その時に、「これまで政党間の駆け引きに翻弄されてきた首長選挙を市民の手に取り戻す」という同会（当時は準備会）のスタンスに惹かれました。学生



時代から市民運動に携わる機会が多かったため、既存の政党政治に対する「幻滅」と、なんとか

して社会を良くして行きたいという思いを持ちながら、選挙の時期になると投票する候補がいらないという「もどかしさ」に悩んでいました。

今回の取り組みは、市民が直接民主主義的な運動を通して硬直した政党・議会政治（間接民主主義）に一石を投じる大きな試みだと思っています。私の持つ「もどかしさ」を払拭することは既存の政治構造を拒否する市民の責任だと今は強く自覚しています。大学院の研究課題としてもこの取り組みには関心を持っています。

今後この取り組みに参画し、民主主義が深化していく現場にコミットしていきたいと考えています。

「京都らしさを後世に引き継ぐことが大事」

叶田青春さん

私は、ピースウォークが開催されたときには、毎回参加しています。



そこに参加したときに市民の会のメンバーから声をかけられ、興味を持って会に参加するようになりました。

私は現在76歳。現在では少なかりましたが、戦争経験者です。沖縄戦には海軍で参加していました。その経験から、平和の大切さを実感していますし、発信したいと思っています。

私は、文化をはじめ京都らしい様々なものを後世に引き継ぐことが大事だと思っています。

また、このためには私たち市民が思いをあわせて、「新しい風」を吹かすことが必要と思っています。

ぜひ、来年の2月には京都から「新しい風」が吹くことを期待していますし、このために私自身も頑張っています。

神戸市

5人が争う「混戦の構図」で批判票が分散

・人 口…1,514,833人（平成15年7月1日現在）
 ・世帯数…635,542世帯（平成15年7月1日現在）
 ・高齢化率…16.9%（平成12年10月現在）
 ・面積…549.98平方キロメートル

神戸市は、瀬戸内海に面して古くから貿易港として発展を遂げてきた。ポートアイランドの造成をはじめ独自の都市政策を有し、ユニークなまちづくりを展開してきたが、平成7年（1995年）の阪神・淡路大震災により甚大な被害を受けた。ハード面の復興は進みつつあるが、市民の暮らしの再建をめざした取組は継続中である。

震災からまもない1997年10月26日、任期満了に伴う神戸市長選挙が行われた。その結果、現職で三選となる笹山氏が当選を果たしたが、次点となった大西氏は基礎票とされる数を上回る得票数を得ていた。

そこで2002年の任期満了による10月の神戸市長選でも、この勢いを継承し、市民派の市長を実現しようと言う動きが生じた。神戸空港建設の賛否が大きな争点となった。

この選挙では97年の市長選で善戦した「たてなおそう神戸・市民の会」、そして「新しい神戸をつくる市民の会」の2つの団体が平行して候補者選びを進めた。この2つの団体ができた経緯は、市民団体に共産、新社会が加わった「たてなおそう神戸・市民の会」から候補者の選考をゆだねられた「市長候補者を考える委員会」が、委

員の構成を巡ってメンバーの折り合いがつかなかったために紆余曲折の結果、分裂し、新たに「新しい神戸をつくる市民の会」が組織されたことによる。

2つのグループは常に情報交換を行っていたようだが、「選ぶ時点でバラバラの行動となってしまう」と。加えてこの2つの団体の枠の外からも立候補者が現れ、当初は7人が表明した。「今から考えても、どうしてこの時に整理ができなかったか、と悔やまれる」。最終的には7名のうち3人が辞退。

2002年10月28日に実施された市長選では、1985年以来と

なる5人が立候補した。（過去最多の立候補者数となったのは、現職、新人計7人が争った1973年）。

しかし結果は現体制の事実上の後継者となる前助役が当選した。

「批判派から多数出馬し、批判票が分散、結果を左右する一つの要因となった」「『市政転換』の掛け声は一つの大きな流れとはならなかった。市政批判を訴えた4人の得票の合計は矢田さんを上回ったが、5人が争う『混戦の構図』は批判票を分

散させる結果に。矢田さんも含め全陣営が『変革』を訴える中、争点は鮮明にならず、無党派層を動かすこともできなかった」（神戸新聞）

「しかし、明るい芽も出てきている。97年の市長選では、大学生を中心に公開討論を連発していた。大学を中心としたこのような取組が、プラスの面として評価できる。自らマイクを握った女子大生のウグイス嬢もいた」。

結果としては「市民派の乱立」

という事態になってしまったが、市民が市長を擁立していく動きが、神戸ではより裾野を広げながら、根付き始めている。

（※途中の発言は、市民の会の集会における中田氏のものを引用）

【投票結果】

矢田 立郎	209,681票
木村 史暁	118,893票
吉田 順一	60,904票
池上 徹	38,645票
上野 泰昭	14,189票

明石市

「組織体制の確立の遅れ」と「市民運動と選挙活動は全く違う」

・人 口…291,698人（平成15年7月1日現在）
 ・世帯数…114,836世帯（平成15年7月1日現在）
 ・高齢化率…16.23%（平成12年10月現在）
 ・面積…49.20平方キロメートル

明石市は、東経135度の日本標準時子午線上にある町である。瀬戸内海に面しており、明石海峡と淡路島が目の前に広がる。気候

は温暖で、古くは万葉歌人柿本人麿によつて多くの歌が詠まれた風光明媚な地であり、紫式部の源氏物語の舞台にもなっている。阪神

都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国と結ぶ位置にあり、海陸交通のうえで重要な拠点となっている。

平成13年の花火大会における歩道橋事故、そして砂丘陥没事故の責任を取る形で、今年4月30日付で岡田進裕市長(74)が辞任をした。これにより、同市長選を4月20日告示、同27日投票・開票とするところが正式に決まった。これは統一地方選の日程と重なり、20年ぶりに同市議選とのダブル選として実施された。

この動きと並行して、市民の有志らが、候補者の擁立母体となる「市民の市長をつくる会」を結成した。

発起人は商店主や会社員、文化人らの約15人で、1月23日に準備会を開き、市民参画に基づく「市民の行政」への転換を目指すこととなった。会員はすべて個人によって組織し、擁立する候補者は、政党や団体と協定を結ばない——などの基本方針を固め、2月8日に設立総会を開いた。

広く会員参加を呼びかけ、入会金で活動費用をまかなって活動を展開

するとともに、候補者選定は、自薦、他薦を問わずに立候補を受け付け、同グループの発起人や学識経験者らでつくる選考委員会で決定した。その結果松本誠氏が選考された。

「市民派の選挙とは何かを考えたい。そのためには『出たい人より、出したい人』なのだろう。候補者自身が市民の望む人であり、乗り手よりも担ぎ手の方が大事なのだろう」、「これまでの活動の経過から、責任を持って参謀を務めようと考えていたが、最終的には私にお鉢が回ってきた」。

同氏は無党派派として運動を展開し、勝手連として応援してくれるものは受け付けたが、いかなる政党とも政策協定は結ばなかった。資金は一口1,000円で会員を募り、後はカンパでまかった。

しかし、投票の結果、明石市政の刷新は県内最年少で元県議の北口寛人さん(37)の青年市長に託された。現職県議の座を辞して名

乗りを上げた候補者である。

同氏は6党相乗りの唯一の政党推薦候補であり、批判的になりながらもその組織力を背景に圧倒的な支持を集めた。

「敗因は、大きく2点。まず『組織体制の確立の遅れ』。非常に短い期間であつたため、組織体制の確立が遅れた。しかし一方で、無党派の市民運動を展開するのに半年間も継続できるだろうか、という心配もある。量の拡大をはかり、1人ひとり押さえていくエネルギー、体制が維持できるか、ということが大事」。

「2つ目の原因は『市民運動活動と選挙活動は全く違う』こと。これは私が当事者になって気づいたことだが、市民活動は質を大事にするし、質を伴った量を拡大していく。しかし選挙はとにかく数、票を集める必要がある。これまで諦めて選挙に行かなかった人を奮い起こす必要もあるし、そしてし

がらみ等で仕方なく投票していた

人に振り向いてもらえる必要がある」。(※松本氏の発言は、市民の

会の集会におけるものを引用)

【投票結果】

北口ひろと 60,182票

松本 誠 28,212票
藤本 欣三 19,141票
藤谷誠一郎 4,206票

尼 崎 市

政党推薦、政策協定を行わない手作りの選挙で5党推薦の現職を破る

・人口 463,256人 (平成14年3月31日現在)
・世帯数 200,616世帯 (平成14年3月31日現在)
・高齢化率 17.40% (平成14年3月31日現在)
・面積 49.77平方キロメートル

尼崎市は、奈良時代から漁業が栄え、鎌倉時代には港町として全国屈指の都市になり、江戸時代には城下町としての姿を見せた。昭和に入ってから、有数の工業都市として日本の発展を支えてきた。工業の街として発展した尼崎市は、

長引く不況の影響で市税収入などが大きく落ち込み、財政難に直面している。また、人口減少など行政課題が山積している。

任期満了に伴う尼崎市長選挙が平成14年12月10日に告示された。

3期目を目指す現職の宮田良雄氏(75)(自民、民主、公明、保守推薦)と、新人で元尼崎市議の白井文氏(42)の2氏が、ともに無所属で立候補を届け出た。

4党の推薦を受ける宮田氏が、いずれの政党からの推薦も受けず、政策協定も結んでいない新人の白井氏を迎え撃つ構図であった。独自候補擁立を見送った共産党は、白井氏を支援していた。

同市長選の投票率は前回まで5回連続で40%を下回っており、市

民派の市長を実現するためには、どこまで有権者の関心を喚起し、投票率を上げるかが焦点となった。しかし投票率はこれまでの中で最低の32.5%だった。ところが白井氏は投票率が40%までいかなと勝てないと思われていたが、結果は白井氏の当選であった。選挙時間の終わりに近づいた頃の投票が左右したと言われている。

白井氏は尼崎で生まれ育ち、市会議員の「カラ出張」発覚を受けた1993年の出直し選で「市民

の視点を持った私がでよう」と出馬した。二期8年の間、どの会派にも属さず「常識的な市民の代表」を自認して活動していた。

しかし「もう一度市民の立場から足下を見つめ直そう」と三選出馬を見送っていたが、市長選への立候補を様々な主体から要請されて、告示2ヶ月前に決断した。

白井氏の訴えは「尼崎を変えよう」というものだった。「発起人として20名あまりの人が集まってくれた。それぞれが応援部隊を持っている人だった。このメンバーを見た時、私

は勝てると感じた。なぜなら、それぞれの人が熱くまじめな人で、私利私欲に走らない人だったから。それぞれが団体を背負っている人ではあるが、皆『このままではいけない』と思っている人ばかりで、一致団結できた。」資金はほとんどカンパでまかなった。

スーパードラマや駅前での屋外での演説を何度も何度も足を運んで行った。それが、沈滞する市政の変革を求める有権者の心に響いたと思われる。

政党推薦や政策協定も行わない

手作りの選挙で5党推薦の現職を破り、市民に新しい尼崎の再生を信託されることとなった。

「みんなに言われたことは『尼崎市民はえらい』という言葉。議員の空出張を許さず、解散に追い込んだ見識が尼崎市民には根づいているんだと信じている。」

白井市長の試みは始まったばかりである。(白井氏の発言は、市民の会の会合でのものを引用)

【投票結果】

白井 文 62,308票
宮田 良雄 57,385票

徳島県

大田氏の選挙を担ってきたのは、吉野川可動堰建設に反対する市民グループ

・人口 822,452人(平成14年3月1日現在)
・世帯数 293,102世帯(平成14年3月1日現在)
・高齢化率 23.4%(平成15年4月1日現在)
・面積 4,145.10平方キロメートル

徳島県は、四国の東部に位置し、山地が多く、全面積の約8割を占

めている。県内の北方を流れる吉野川は流域に多くの人口を抱えな

がら、今なお、清い流れを保っており、支流の穴吹川は、清流四国

一に輝いている。

この吉野川に、1998年に第十堰可動堰化の計画が持ち上がった。紆余曲折を経ながらも、この計画の賛否を問う徳島市の住民投票が2000年1月23日に実施された。住民投票の結果は、9対1で圧倒的に建設反対派が勝利した。しかし、徳島市民はこの結果にしたがうことを表明したが、国、県や県議会はこの住民の意志表示に對し、明確な態度を取ることはなかったようだ。

2001年9月16日に行われた徳島県知事選には、「吉野川住民投票実行委員会」のメンバーが推す大田正氏が挑んだ。市民運動がいかに盛り上がりつつも、県政を制しなければ目的が達成できないと考えたからである。対する候補は、自民、公明、自由、保守推薦の現職(3期目)であった。投票結果は現職178,141票、大田氏146,349票。残念ながら勝利に

は結びつかなかったが、「今振り返ると、お粗末な選挙戦だった。しかし、このような取組で私たちは大きな自信をつけることができた」。

2002年4月28日、現職知事の公共事業に関わる談合疑惑に關しての起訴・辞職を受けて再び知事選挙が行われることとなった。

この選挙では第十堰可動堰に反對する運動団体が擁立する元県議の大田正氏(58)、元会社社長の山崎養世氏(43)、自民党が支援する元県教育委員の河内順子氏(54)の無所属3新人が立候補した。結果、太田正氏が当選することが出来た。「私たちの運動は、ある種行き当たりばったりのような取組だったかもしれない」。

『徳島県の知事は、県民のもの』という思いだけで走ってきた。全員がボランティアで、全額カンパだった。みんな徹夜もした。やればできるんだと実感できた」。

しかし2003年の春、徳島県議会による知事不信任案可決を受け、住民派の大田知事が失職、5月18日知事選が行われることとなった。3年間に3度目の知事選挙である。不信任のきっかけは、大田氏の公約の中で、一步も譲らなかった「汚職調査団」の設置であった。利権議員たちや、身に覚えのある役人たちの間に恐怖が走ったのだろうか。

佛蘭西風喫茶室
フアンソア

京・四条小橋下ル
TEL.351-4042



当初は現職の大田知事が有利と見られたが、自民、保守新党、公明県本部の推薦を受けた官僚候補が当選した。一方大田氏の選挙を担ってきたのは、既成政党ではなく、吉野川可動堰建設に反対する住民グループだった。「今回の選挙

は投票率も上がり、得票数を前回よりも30,000票もあげたが、残念ながら負けてしまった。色々反省点もあるが、これを次回に生かしていきたい」。徳島県の挑戦は、今後も続いていく。
(文中の発言は、市民の会の会合

で豊岡氏が話されたものを引用)
【投票結果】
(2003年5月知事選挙)

飯泉 嘉門	206,221票
大田 正	197,732票
篠原 滋子	10,726票

横浜市

「支持政党なし」の無党派層の5割以上投票した中田氏が市長に

横浜市は、横浜は神奈川県の一部に位置し、県内で最も大きい市であり、全国に12ある政令指定都市のひとつである。人口350万人を抱える大都市である横浜市においても、無党派市民が市長を擁立する動きが生まれていた。「市長を変えよう」2002年市民の会である。

現職市長の4選を阻止しようと、2002年の市長選を視野に入れて、2001年の秋から環境保護運動団体や子育てに関する団体、定時制高校に関する団体、市民オンブズマンなどの活動を展開している団体や個人が集まって活動を展開していた。

2001年12月14日には正式な

会として発足し、横浜市の将来像や望ましい市長像に関する論議を重ね、候補者の交渉を行ってきた。「現職の高秀市長は多選の弊害を批判され、72才と高齢でありながら、4選を目指しているというところに危機感を感じ、なんとしても阻止し市民主体の市政を実現するために、既成政党や政治家、労働

組合など大きな団体の推薦の市長ではなく、市民自らが主体的に擁立し、市民推薦の市長を誕生させたいと考えてきました」(会のHPから)。

しかしながら、候補者の交渉に当たっては著名なジャーナリストと交渉を重ねていたが、結果、擁立は成功せず、会は検討の上解散されたようだ。

「結果的に擁立は成功しませんでした。したが、その後の活動をどうするか世話人会や支持してくれた市民の方々とも議論してきました。時間的にも独自候補の擁立は不可能であることと、(中略)会としての一致した候補がいないのであれば解散し、今後はそれぞれ自主的に行動することに決定いたしました」

市長選には4名が立候補をした。自民・公明・社民・保守が推す現職。共産党が推す松川氏、衆議院から転身を狙う中田氏、元市職の

稲垣氏の4名であった。現職、松川、中田の3者の争いであると言われていたが、結果は政令指定都市で最年少(38歳)となる中田宏氏が当選した。

既成政党への不信が高まる中、政党の支援を受けず「主要政党は1人の候補者に相乗りし、有権者に他の選択肢を準備することをサボタージュした」と批判する中田候補が無党派層の支持を集め、多党相乗りの候補を破った。

マスコミ各社が行った出口調査によると、「支持政党なし」の無党派層の5割以上が中田氏に投票したようだ。また投票率の5.24%の上昇も中田氏に有利に働いた。

【投票結果】

中田 宏	447,998票
たかひで秀信	426,833票
松川 康夫	158,088票
稲垣 隆彦	34,855票

まちの話題

プライバシーか、犯罪抑止か — 京の繁華街に防犯カメラ

河原町蛸薬師商店街振興組合は3年前に防犯カメラを計10台を設置した。落書き被害が減ったほか、警察へビデオを任意提出して窃盗や傷害事件の解決に結びついたケースもある、という。西口正博理事長は「防犯効果は確実にある。使用目的がはっきりしなければビデオは警察へ渡さない。プライバシーが問題になったことはない」と振り返る。四条繁栄会商店街振興組合は、来年度以降、四条通の烏丸一四條大橋間に計80台を設置する。寺町京極商店街振興組合も設置に前向きだ。

一方、中京区西ノ京の京都三条商店街振興組合は「客のプライバシーや経費を考えると、そこまでやる必要があるのか。各店が声を掛け合ったり見回りをして安全なまちづくりを目指す」と慎重だ。この他にも設置を予定していない商店街も多い。

(9月9日付京都新聞より)

文化財(豊郷小学校)を破壊した

町長の無法は決して許さない。

豊郷小学校の歴史と未来を考える会代表 本田 清春

1. 司法制度すら無視の町長

2002年12月19日大津地裁より「(豊郷小学校) 校舎を取り壊してはならない」とした仮処分決定が出された。しかしその夜、豊郷町大野町長は役場内で記者会見を開き、多数のマスコミ関係者の前で「(解体) 工事は粛々と進める」と言い放った。大野町長は、最高裁の判決が出るまでは行政の手は縛られないとする、彼独特の司法制度の理解を示した。しかし、このような論理が法治国家で通用するはずがない。仮に裁判所の仮処分決定に不服があれば、その取り消しを求めるべきであり、仮処分決定が法的拘束力を持つことは

疑問の余地のないところである。公然と司法制度を無視し学校破壊を明言した町長は、翌日の午後、まだ教職員が勤務する学校を突然襲い、校舎内はパニックに陥るなかで校舎解体に着手した。

この蛮行を受け、学校関係者は学校から出ていくなか、私たちは1メートルの鉄のバールを持つ解体業者の前に体を張って校舎を守った。この際に女性が突き飛ばされてケガをする事件も起こった。その場に警察官も数人入っていたが、彼らの破壊行為を止めることをしなかった。

彼らが去った後、再び襲ってくるかもしれない恐怖の中で、私たち住民は校舎保全のために校舎に泊まり

込むことを選択した。連日地域の方々が学校に来て、掃除を行ない、私たちは事態の収拾を願って、校長および教育長と話し合いを持った。こうして4日間が経過した。

すると、それまで姿を見せなかった町長が、12月24日役場に姿を見せて「校舎は保存する」と言明した。やっとなんだ勝利だった。これで問題解決と私たちは喜び合った。

2. このような町長をもう許しておけない。町長リコール署名へ

しかし、それはぬか喜びに終わった。大野町長は新築をあきらめてはいなかった。「4月から新校舎工事着工」を議会で答弁し、新築ありき

の姿勢を町民に見せつけた。校舎解体はしないが、その校舎の横に新築校舎を建築すると言いつつ。この町長を支持する圧倒的な保守の町議会議員、それに加えて「建築促進親の会」と名乗る「住民団体」を立ち上げ、住民に敵対してきた。

このような町長をもう許しておくことはできない。高まる町長批判の声を受けて、町長リコール運動を起していった。この運動には保守の議員、前町長、共産党議員を含む「一新の会」を結成し、闘いを開始した。高まる町民の期待を受けながらも、町長リコール署名を集めることは高いハードルだった。

受認者が各戸を回り自筆で氏名と



住所と印をとり、さらに2週間の縦覧期間を乗り越えなければならぬ。定数

は有権者の1/3以上である。そして縦覧期間にも町長からの圧力はかけられた。こうして挑んだリコール署名運動は、2003年1月8日、町長リコール署名数1892筆と確定し、定数をわずかに6票超えて成立しリコール投票が実現した。

3. 町長リコール成立

町長リコールを問う住民投票は、2月17日告示、3月9日に投票日と決まった。長いたたかひだった。私たちは「カメは勝」を合い言葉に、運動を開始した。この運動を、近畿はもろろ日本各地から支援していただいた。個人として長野県知事田中康夫氏、ニューヨークからは画家の黒田征太郎氏、穀田恵二議員、河村たかし議員、それに労働組合や各地で建築物の保存運動を担っている団体の方々がこの豊郷に駆けつけて、私たちを励ましていただいた。

私たち住民側の一致した闘いと、支援の力が集まって2450票対2

070票で町長リコールが成立した。大きな成果だった。が、その票数差に不安を漏らす住民もいた。

4. 出直し町長選挙での惜敗

出直し町長選挙が始まった。「考える会」は伊藤定勉氏と政策協定を結び、町長選挙をたたかった。ところが、町長側からの攪乱が功を奏してか、住民側の候補者は一本化できなかった。4月27日開票結果は、伊藤氏と大野氏の差55票の僅差であったが無念にも破れた。悔しい結果であった。

しかし、これで大野町長の校舎破壊の犯罪行為は消されたわけではない。「大野町長の犯罪行為を厳しく取り締まれ」の署名活動を現在強めている。また、新築予算の執行停止を求める裁判もたたかっている。たかひはこれからである。

詳細は『豊郷小学校は今』(本田清春、古川博康共著、サンライズ出版)を読んでいただきたい。

貸付するお金は、違法な金利を徴収するための餌に過ぎない。ヤミ金は一種の詐欺商法である。

1 ヤミ金とは

新聞やテレビ等のマスコミを連日賑わしている「ヤミ金」であるが、「短期」、「小口」とも呼ばれるヤミ金業者の多くは、「トイチ」と呼ばれている業者である。「トイチ」とは、俗に言う10日で1割ではない。「東京都（1）」という東京都の新規登録業者のことである。「トイチ」は、ダイレクトメールや電話によって勧誘することが多く、貸付や返済は銀行口座を利用して

いる。

このような業者は、2万円や3万円といった少額のお金を5日間

や7日間で数千円という利息で貸し付けるのである。年利に直すと実に1000パーセントを超えるものも少なくない。

また、携帯電話を利用した「090金融」と呼ばれるものもあり、貸付方法は「トイチ」と似通っているが、街の電柱等への張り紙や郵便受けへのポステイング等による勧誘が多く、貸付や返済は銀行口座を利用することなく、直接手渡しによるものが大半である。そのため、貸主が誰なのかが分かりにくいという特徴がある。

そして、このようなヤミ金業者は全国で何千軒もあるようである

が、最近摘発された事件のように、特定の暴力団が資金を出して複数の業者を装っていることが少なくないようである。

さらに、直接金銭の貸し借りをするものにとどまらず、チケット金融、家具リース、自動車リース等、高速券や新幹線の回数券の売買を仮装したり、家具や自動車の賃貸借契約を仮装して実質的には高利の貸付を行う形態もある。

2 ヤミ金が増加した背景

このようなヤミ金は、最近になって始まったものではなく、古くから存在したものである。しかし

ながら軒数が少なかったために、それほど表面化することがなかっただけである。

貸金業界では、ヤミ金業者が増加した理由として、貸付金利の上限が引き下げられたからだと言われている。これは、商工ローン問題が社会問題化したことを契機として、これ以上の金利で貸付を行えば処罰の対象となる金利を定めた出資法等の改正があり、平成13年6月より、それまで年利40.004パーセントであった金利の上限が年利29.2パーセントに引き下げられたことにより、登録業者であったものがヤミ金化したというものである。

しかし、ヤミ金が増加した本当の原因は、貸金業者が言うように貸付金利が引き下げられたことによるものでなく、多額の借金を抱えている人々（多重債務者）が急増したことによるものであると言える。

平成10年10万件、同11年12万件、

同12年13万件、同13年16万件、同14年20万件。

これは、最近の自己破産申立件数であり、平成15年は平成14年を上回る勢いで自己破産が申立てられているが、これにより多重債務者が増加していることが裏付けられている。

サラ金業者は、無人機の導入によって若年層を取り込むと同時に、銀行のATMとの連携をするなどして、無人窓口を大幅に増やし、他方イメージ広告中心のテレビコマercial等を増加させることにより、消費者に対してサラ金を身近な存在として印象づけようとしている。そして、不景気による収入の減少等の理由とも相俟って、サラ金やクレジットカード会社からお金を借りる人は増加する一方である。

ところで、サラ金やクレジットカード会社からの借入は、一度借りてしまうと利息に追われることになる。この低金利時代においても、サ

ラ金やクレジットカード会社の貸付金利は年利20パーセントを超える場合が大半である。これは、単純に考えても50万円を借りれば1年間で10万円以上の金利を支払うことになるのである。100万円を借りれば年間20万円以上の金利を支払うことになるのである。

収入が少ないから借りる。借りたら、返せなくなるから、また借りる。また、借りるとますます返せないから、さらに借りる。こうして借金は雪だるま式に増えていく。そして、いわゆる自転車操業状態に陥るのである。

もともとサラ金やクレジット会社も無制限に貸付をするわけではないから、いつかは借入ができない時期が到来する。しかし返済は待つてくれない。返済が遅れば、督促の電話や自宅訪問が待っている。そのような時に登場するのが「ヤミ金」である。

ヤミ金は、どこからか入手した

多重債務者の名簿等を利用して、自宅にダイレクトメールを送りつけたり、勧誘の電話をかけてくるのである。仮に借金の返済に追われている人がそのようなダイレクトメールや勧誘電話を受けたら、借金の返済のために借入れてしまいうのが実情なのである。

3 ヤミ金被害の取立実態

ヤミ金の被害実態は、最近のテレビや新聞の報道からも明らかである。お金を借りた本人への督促にとどまらず、勤務先や親族、場合によっては本人の近隣へも督促の電話がされる。電話では、聞くに耐えない罵詈雑言で、本人や親族を責めるのである。「返済しなければ殺す」などというのは、彼らの常套文句でもある。

電話だけでなく、電報等を利用することもある。

借りた本人は、ヤミ金に責められ、親族や勤務先から責められて、

精神的なダメージを受けていく。そのため、法律上支払う必要の無いお金を支払い続けていくことになる。ヤミ金への返済をするために、新たなヤミ金から借入をすることにもなるのである。そのため、自殺に追い込まれた人も少なからずいるのである。

また、最近ヤミ金はますます悪質化している。例えば、返済時間まで指定し、その時間に返済が間に合わなければ返済として認めず、さらなる金利を請求したり、実際には貸し付けてもいないお金を請求するなど、は序の口である。ひどいものは、信用調査と称して、貸付の口実に先にお金を振り込ませるだけ振り込ませ、実際にはお金を貸しもしないというもので現れている。

4 ヤミ金対策

このようなヤミ金被害の相談を受けた場合、安易に借主に電話番号の変更を指示してはいけない。借主が

なか根本的な対策を講じることは困難であった。

最近になってようやく警察庁が重い腰を上げて、全国の警察本部に対してヤミ金対策を講じるよう指示を出したことから、次第にヤミ金の摘発が増加するようになっていた。

また、全国の弁護士や司法書士等が、積極的にヤミ金に対する刑事告発を繰り返した。しかし、弁護士会等の相談窓口やミ金被害は増加するばかりで減少することはなく、ヤミ金を規制する法律の制

定が待たれていた。

そのような中で、今年6月、大阪府八尾市で3人のヤミ金被害者が自殺するという痛ましい事件が発生したことは記憶に新しいところである。そして、この事件を契機として、国会ではヤミ金対策法として出資法や貸金業規制法といった貸金業者を規制する法律を改正する動きが活発化し、今年7月には改正案が成立した。

主な内容としては、出資法の上限金利を超える貸付に対する処罰規定の厳罰化、高利貸付の勧誘・広告の規制、違法取立の厳罰化等が規定されることになった。また、年利109.5パーセントを超える金利を徴収する貸付は、貸付を行う契約そのものが法律上無効になるという規定が盛り込まれた。これは、単に利息の返済を不要とするだけでなく、これまで以上に元金の返済を不要とするものである。今回の出資法及び貸金業規制法

電話に出なくなれば、借主の親族等へ被害が拡大するだけだからである。

むしろ、借主自身が毅然として、返済する義務の無いものであるから返済しないということを繰り返すし言うだけでなく、場合によっては、逆に業者に対して返済したものの返済を執拗に求めていくことが根本的な対策である。

そもそも、ヤミ金は、出資法の上限金利をはるかに超える金利を請求するものであり、彼らが貸付に利用するお金は違法な金利を徴収するための餌に過ぎないのであり、一種の詐欺商法である。従って、利息の支払はおろか元金の返済義務すら無いと言えるのである。

ところで、一昨年よりヤミ金被害が増加する傾向にあったものの、出資法の上限金利を超える貸付に対する処罰規定が3年以下の懲役または300万円以下の罰金というものであったこともあり、なか

の改正によって、ヤミ金の違法性はより一層明らかになったことから、刑事処罰が容易になったと言える。

さらに、最近では、ヤミ金を利用する銀行口座の使用停止を銀行に申入れる等により銀行が銀行口座を使えなくしたり、あるいは借主がヤミ金の利用している銀行口座を仮差押という裁判手続を通じて使えなくするという手法で、ヤミ金の営業行為を食い止める手法も利用されるようになってきている。

5 最後に

このように、ヤミ金被害者を救済するための対策をこうじることには容易になりつつあるが、もっとも肝心なことは、たとえどのような理由があろうとも、このようなヤミ金を利用しないということである。ヤミ金の利用が減らない限りは、ヤミ金被害は減少しないからである。



1人の人の送られてきたヤミ金からの融資の勧誘のハガキの一部です

京都に、新しいアートシアターを!!

映画コーディネーター 神谷雅子

京都朝日シネマが、閉館して1年になろうとしている。あらためて映画館が欲しい、と痛切に感じている。映画と観客を直接結びつける場として映画館に勝るものはない。いま「コミュニティシネマ」という考え方で、日本の各地に映画館を作ろうという動きがある。

文化庁も、この4月24日に「これからの日本映画の振興について」日本映画再生のために(提言)を発表した。内容をみてみると、興行面では映画館以外の場所での上映会を支援する方向も強く打ち出されている。シネマコンプレックスの大型映画館(複合映画館)一カ所に多スクリーンをもち、入れ替え制員制、見たい作品と時間帯を選べることができる)もアートシアターもない多くの地方で、映画を観たいという要望に応える仕組みづくり、文化庁として積極的に関与していこうという姿勢は見取れる。

日本映画発祥の地であり、映画を作り続けて100年の歴史を誇る世界にも稀な映画都市・京都にとって、映画を日本全国だけでなく、世界に発信していく新しい「アートシアター」はどうしても必要だ。

「」をめざしたい。映画発信の拠点となる「アートシアター」ができれば、可能性は限りなく広がる。

日本の映画興行は、90年代後半から主に外資系のシネコンスタイルの映画館が定着し、大きく変わった。良い環境で映画を観られるようになったことで映画人口が増加、長い間、設備面での投資を怠っていた日本の興行会社もサービス業として当然の設備投資を行うようになり、大きく再編成されつつある。

これからの映画館は地域に根ざしたアートシアターとシネコンに二分化されていくのではないか。京都市内も、松竹は、MOVIX京都(01年秋開業)の成功を受けて、2005年春を目処に新京極の旧京都松竹座跡地に5スクリーンの増館を発表した。二条駅にシネコン進出の方向を打ち出した東宝の動向が注目されている。京都でも遅ればせながらこうしたメジャー映画館の再編成が始まったが、「アートシアター」は、商業スペースでありながら文化スペースでもある。映画興行界全体としては映画観客増をめざす点でシネコンとの「すみわけ」は可能だ。

映画館を作るには大きな資金が必要で一朝一夕には出来ない。今後しばらくは、映画館以外の場所での自主上映会などを進めていく。7月は、立命館大学国際平和ミュージアムで平和をテーマとした作品の上映会を行った。今後も引き続き企画上映を行っていく方向

そのシアターでは、日本やアジア、アメリカ、ヨーロッパ、など世界各国の秀作、名作を上映していくのはもちろんだが、例えば京都にある撮影所の製作情報を予告編で流し、製作現場と観客をつなぐ役割が果たせないか。日本映画を京都から発信するために、「メセナシネマ」(仮称)のような試みも考えたい。興行収入の数%を映画館でプールし、観客も参加して企画コンペを行い、入選作に助成する。観客は映画を観ることで製作支援にも参加できることになる。

京都が大学の町である特長を生かし、京都の映像系大学の学生作品の上映や、映画研究の成果を発表する場づくり、自主制作の学生映画も積極的に公開したい。京都にある外国文化センターとの協力もさらに積極的に展開したい。あるいは、放送局とも協力し、特に時代性、社会性のある優れたドキュメンタリー作品などの上映ができないかとも考えている。観客と、映画の作り手、映画の送り手、みんなの顔が見える映画館、京都に根ざし、新しい日本映画を発信していけるそんな「アートシアター」

で、平和ミュージアムとも合意が出来た。8月はイタリア文化会館と一緒にウイングス京都でイタリア映画を上映し、今後も協力していくことになった。

9月は京都ドイツ文化センターでも上映会を行った。上映作品はロシア映画「エルミタージュ幻想」だ。ロシアを代表するアレクサンドル・ソクーロフ監督が、NHKとドイツのプロダクションの協力を得て、映画史上初めて90分ワンシーンワンカットで作上げた作品だ。日本を代表する撮影監督、森田富士郎さんや京都精華大学映像学科の伊奈新祐教授に作品解説をお願いした。

また、10月に開催される「ウイングス京都女性映画フェスタ2003」の企画を、京都市女性協会と一緒に検討中だ。女性監督や、字幕翻訳者などを招き、作る女性を応援する内容にしていきたいと思っている。映画を上映するだけでなく、プラスアルファとして、その内容をより深めていただくために、講演や写真展などを一緒に行うなど、ひと味違う上映会をめざしている。

来年12月、神谷雅子さん(如月社)の企画・経営によるアート系映画館「京都シネマ(仮称)」が下京区四条烏丸下ルにオープンします。各60、90、111人収容の3つのスクリーンで世界各国の名作や秀作を上映、大学や撮影所とも連携して京都ならではの映像情報の発信を目指します。

(京都新聞 7月16日付 提言に加筆したものです)

伝統の棚卸しがやってきた

伝統をトーク委員会委員長 越村美保子



ほんものの京都

大学時代の恩師である門脇禎二先生は、たびたび学生に「京都は怖いところだ。ほんものを見る目を養いなさい」とおっしゃっていました。大学時代から京都に住み始めた私は先生の言葉の意味も分らないまま、学生時代にはほんものの京都を知ることはありませんでした。

大学を卒業してすぐに伝統産業に携わる方々と、お仕事を一緒にさせて頂き、すぐに門脇先生の言葉の意味が理解できました。そこには進めば進むほど奥の深い、出口の見えない伝統の世界がありました。どっぷりと浸かるにも怖くて、入り口あたりで右往左往している間に、悉皆屋をしている主人と結婚することになりました。主人の

仕事を理解しようとしているうちに、自然に身を任せてその深い、伝統の世界を垣間見るようになりました。

団塊ジュニア世代の私たちは、大量消費による経済発展を最優先とした両親のもとで生まれ育ちました。小さい時から「物を大切にしない」といわれながらも、一生使える良いものには出会っていません。京都に暮らす人々に出会うたびに、必ず「一生もん」といわれるようなものを大切に使われているのを見ては、大変羨ましく感じたものです。

偶然にも主人の仕事は誂友禪や、染め替え、しみ抜きをしており、私の母が若い時代に作った着物も、私に合うように手を入れてもらいました。20年は着ていなかった着物も簡単に蘇り、私のおでかけ着として活

躍しています。これもほんものの技術が施されていたからで、この先、少しずつ手を入れながらであれば、まだまだ長い間着ることが出来ます。ようやく私にも、ささやかな一生もんを持つことが出来たのです。

しばらくは主人がどのような仕事をしているのか、理解できなかったのですが、時間が経過するごとに理解できるようになり、さらに奥深さを感じていました。主人と一緒に家業を継ぐことが、1つの目標にもなりました。私のように「知らないことを武器にして、伝統を使い楽しめる生活」が若い世代に必要なのではと考えるようになりました。

3年ほど前から私は、京都で生まれ育ち、京都で暮らし続けるであろう友人と、これからの京都について

色々話をするようになりました。それは私自身がこれからの京都で何が

できるかを考えることでもあり、伝統産業に携わるものとして、「京都のいいところ、悪いところを見直していく」ことが必要だと感じていたからです。町家や祭事など京都が内外から注目を受けることは多いのですが表面的なことばかりで、やはりそこにはほんものが感じられない、そういうジレンマがあった時期でした。

このままの京都で良い訳ではない。何か変化を持たなければと考えていたところ、京都を良くするために何をチョイスするのかを考えようと、洛創（らくそう）というグループを3人でこじんまりと立ち上げました。京都に生

嵯峨あかり庵と

「伝統をトーク」

洛創として、初めの一步を何にするかが重大な課題でした。ボラン

ティアベースであり、緩やかなネットワークとして、活動していく

ための材料を探すことから始めなくてはいいかもしれません。ちょうど友人が、宮大工の曾祖父によって70年前に建てられた、嵐山のお宅を活用保存するプロジェクトを進めており、私も掃除などを手伝い始めていたところでした。嵐山という土地柄を活かし、文化の発信源として活用していきたいと相談を受けていたため、洛創も参加することになったのです。

京都の文化や伝統に魅せられている友人を中心に、冬場の寒い時期でも雑巾がけなどこまめに掃除をするようになりました。普段は出来ない庭の手入れや掃除をしている間の雑談が、実は有効なミーティングとなり、そこから「伝統をトーク」の企画も生まれました。家の名前も、京都の若者たちが「この家にあかりを点すように再生させよう」との想いから『あかり

庵』と名付けられました。

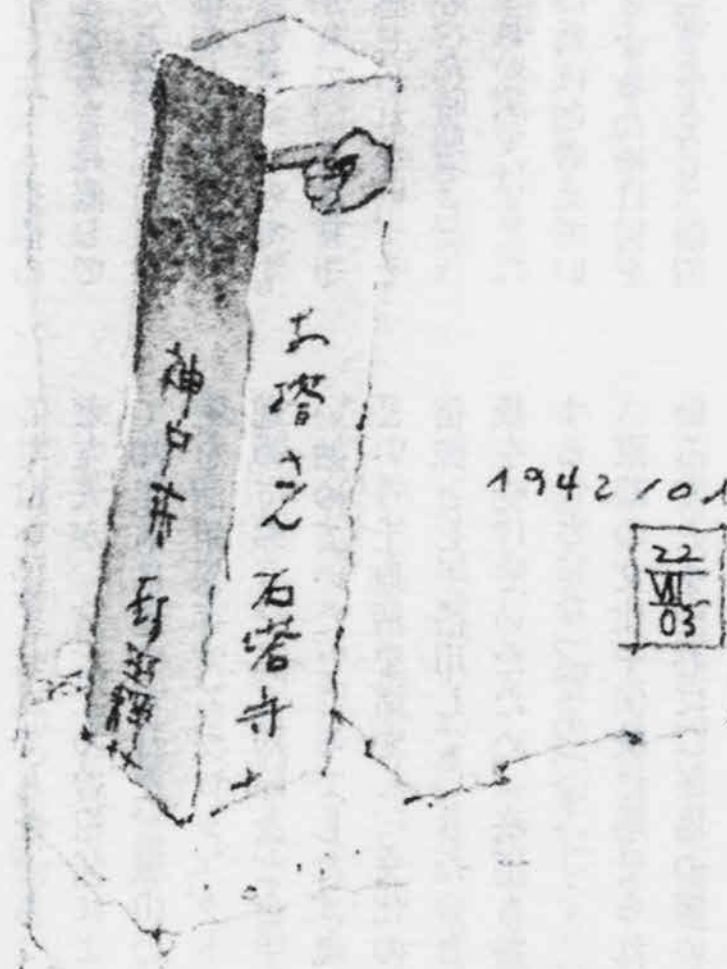
あかり庵というハードが整い始めると、これからはここで何をしていくのか？という議論が始まりました。京都の歴史や文化の発信源として、次代の日本を背負う若者たちと一緒に日本文化に触れることが出来たらとの思いから、「伝統をトーク」を開催することになりました。京都在住の伝統産業に携わる若手の職人さんをお招きして、携わっている業界の歴史・材料・産地・今、興しつつある新しい動きなどお話し頂いています。

これからの京都に必要なことは何か。伝統を守り、新しいものと融合させて伝えていくことだけが本当に有効な手段なのでしょうか。伝統も、これからの時代に必要かどうか、次世代のユーザーである、若い世代が一度棚卸しをして、必要であれば、また違う伝統を作る動きを見せても良いのではないかと考えています。

みちしるべ

円満字 洋介(西日本建築探偵団)

1942/01
22
VII
03



わたしの住むM市はとっても普通の町だ。都会でもないし農村でもない。宅地化の進んだ近郊農村地帯。そんなどこにでもあるような当たり前の風景も、よく観察するとけっこう古いものが隠れている。

駅前小さい道しるべがある。指先印の浮き彫りがおしゃれ。「昭和十七年一月」とある。そんなに古くはない。「お塔さん」とは旧街道沿いの石塔寺のこと(「お塔さん」っていうやさしい呼び名があるんだね)。駅から旧街道へ抜ける路地の入り口に立つ。小さいけれどもちゃんと立っているのだ。

スケッチしていると、この路地が水路であることに気付く。フタがされているので気付かなかった。水路は線路敷きを横断している。線路敷き部分だけ水路が地上に現われている。今も使われているのだろうか。草がいっぱい生えている。どこから流れてきたのか? そして、どこへ流れていくのか。水路はけっこうおもしろいのだ。そして、けっこう古いのである。



さて、駅は一九三一年開業。その後一面の竹やぶも開発され、桜並木と噴水のある住宅地となった。昭和一七年つてのはそのころのことだ。昭和一七年一月、つまり大平洋戦争開戦の翌月。まだよく分からないけど、この道しるべは、なにかあたりの風景が変わったことの証人なのかも知れない。

● BOOK REVIEW ●

逆説の對位法

ディアレクティク
八木俊樹全文集

八木俊樹著

発行 クレイン

発売 平原社

本体 20,000円



評者・三木千種

東一条の交差点から生垣越しに見えていた木造平屋。京都大学学術出版会は、その中にあった。以前は営繕のための木工室だったらしい。中には常時、20匹を超える猫たちと、本や原稿に囲まれ仕事（いや、生活だったかも）をする八木さんがいた。

八木さんは、息をするのも惜しいというような勢いで、ただジッと原稿に向き合い、おおかた人間らしい生活とは無縁な人であったが、私にはとても幸せそうに見えた。

著者、八木俊樹は編集者。その仕事場と彼の風体からは想像もできないような繊細な装訂の本を造り出していた。

この7月、八木さんテイストな本と7年ぶりに再開した。編集者の1人は言う、八木さんやったらこうするだろうと思いつながら作業した」と。本書は、

- 一、自體の呪縛と對位法
- 二、先驗的誤謬の對位法
- 三、書言語の對位法

- 四、編集後記等
- 五、京都大学学術出版会
- 六、日本トルコ文化協会
- 七、研究会レジュメ等
- 八、ノート
- 九、原稿断片
- 一〇、メモ
- 一一、私の計画
- 一二、年譜

の十二章立て。

収められた文章の中で、最も古いものは、なんと私の生まれた年1964年に書かれている。京都大学11月祭のパンフレットに掲載された文章で、劇画のコマ割のようなリズム感で進んでいく。学生特有の暑苦しいくらいの難解さとスピードだ。

私が、彼の下でアルバイトをしていた頃はといえば、『高瀬泰司未刊行集・あとがき』でその年迎えた高瀬氏の七回忌について触れ、それを迎える複雑な心境を語っている。この本もまた、八木さんの七回忌に刊行されたことを思うと『あとがき』で

読んだ時とはまた違った感情が生まれてくる。私は、自分とのかかわりを思いながらこの本を読み進め、また書評を書き進めている。私にもつと言葉を操る力があれば、1280ページから成る本書の魅力のある距離を保ちながら表現できたのだろうか。

例えば、『石川九楊氏サントリー学芸受賞記念祝賀パーティー基調報告草稿』を読むと、芸術とは何かが分かったか、『出版』私の図式、又は若い編集者へ』では、アマチュアとプロフェッショナルの間には決して渡ることのできない深い川が横たわっているのだ等。大半がこのような真つ向勝負の文章だが所々に、著者のお茶目な部分も顔をのぞかせる。

そして、それら全てがいたって控えめに表現されている点が八木流なのであろう。

装訂は八木さんのよきパートナー石川九楊氏。三月書房・ジュンク堂で販売。

おすすめ2冊

「ドキュメント京都市政」

梶 宏 著
白川書院 定価 3,000円

サブタイトルは「次代に生きるあなたに伝えたい」である。

京都市をめぐる不祥事はあとをたない。反面、情報公開と市政への市民参加の流れは、静かに進みはじめている、そして新しい時代は若いリーダーによって担われる必要性があると著者は考える。

37年間の市役所勤務を終え、今後は一市民として市政に関わろうとする視点で描いたドキュメント。今川市政まで、記憶に残る出来事が目次にはずらりと並ぶ。



「右と左と裏」

暴れん坊記者が明かす京都秘史

笹井慈朗 著
白川書院 定価 1,800円

「新聞記者の単なる回想録なんてものではなく、自らが仕掛けた京都の歴史の裏舞台を赤裸々に描いた迫力満点の読み物。『京都の戦後秘史』というにふさわしい」と、先ごろ中央政界を引退した野中広務氏に評された本書。

その野中氏の57歳衆院議員初当選時の中央派閥に直結する京都政界の事情、また京都テレビ誕生をめぐる著者と田中角栄氏との邂逅など、今なお生々しく脈うつ京都の戦後史である。



京都の文化

随想・『往生礼讃偈』の旋律

藤波 武

『往生礼讃偈』といっても、読者には殆どお判りにはならないだろう。家の宗旨が浄土宗ならば、少しは聞き覚えもありかも知れない。『往生礼讃偈』とは、浄土宗や浄土真宗、或いは時宗で勤められている、唐代浄土教の高僧・善導大師が編んだ、浄土往生を願い、阿弥陀仏を称讃する詩文を中心にした古儀の声明である。

浄土宗では「六時礼讃」と通称されていて、その名は24時間を6つに区切り昼夜4時間ごとに勤められる事に由来する。浄土門を大成した法然が生きていた時代の京都では、盛んに勤められて、民衆から貴族に至るまでその文言と旋律に涙したという。末法の世と嘆かれた藤原・鎌倉

期の人々は、貴賤を問わず世を厭い浄土往生を願ったのである。

法然が説く浄土往生の仏教は、修行も必要とせず、善悪の隔てなくただ念仏すれば必ず阿弥陀如来の救いに与るといふ、革新的な宗教だった。それ故、奈良や比叡山の旧仏教からの弾圧は尋常ではなく、たびたび朝廷へ念仏停止を促す奏上がなされていた。

果たして、念仏停止の勅が下り、法然ら門下の僧たちが流罪や死罪となった直接の原因が『往生礼讃偈』にまつわる話である。建永二(一一〇七)年、法然の弟子の安楽と住蓮は、鹿ヶ谷に草庵を結んで六時の礼讃を勤める法要を行った。その折、参詣者の中に鈴虫と松虫

という宮中の女御がいた。安楽・住蓮の、礼讃を諷誦する美声に随喜した二人の女御は、ついに出家してしまった。それが後鳥羽上皇の逆鱗に触れ、師匠法然は監督責任を負わされて讃岐へ流罪となり、二人の弟子は斬首された。後の浄土真宗の宗祖となる親鸞も、法然門下では若年ながらその才知に頭角を現し、危険人物と見なされてか、越後へ流罪となったのである。

歴史的経緯に彩られた『往生礼讃偈』だが、我が浄土真宗本願寺派(西本願寺)にも伝えられてから幾久しい。特に西本願寺が伝承する『往生礼讃偈』の旋律は、浄土宗や時宗で実唱されているそれよりも、法然の時代に唱えられていたであろう旋律に比較的近いといわれている。本山である西本願寺では、歴代門主の祥月命日など各種法要で随時用いられる。しかしその一方で、特に都市部の本願

寺派寺院で行われる法要には、殆ど用いられなくなった。

哀愁を帯びた美しい旋律ながら、リズムカルに唱えなければならぬ『往生礼讃偈』は、ややもすれば敬遠されるのであろうか。『往生礼讃偈』は、その一字一字に音階と旋律型が指定されていて、その組み合わせの連続がとなって道場を荘厳し、浄土のさまを演出するのである。いにしえの日本人が好んだ旋律も、現代人の我々がそれを忠実に復元するのは至難である。しばしば仏教界の中で指摘されるのは、法要で用いられる作法というのは、一旦簡略化してしまうと、元に戻すのは至難であるという。確かに、本山クラスの大寺院でさえ、改定と称して簡略化される傾向にあるようだ。そんな私は、本願寺派が伝える『往生礼讃偈』の旋律がこの上なく好きである。この旋律をして、私は本願寺派の末流にある冥利とさえ考えている。

私は、去る5月に帰洛するまで、2年余りを神戸で過ごした。妻の実家の分家筋になる寺が神戸の六甲山麓にあつて、俄に後継者が絶えてしまったのだつた。よって、我々が寺務に従事すべく、この寺に止住したのである。典型的な都市型寺院で、寺本来の行事は最低限で行われてきたために、専ら月命日の檀家参りに追われる日々が続いた。僧侶が檀家参りをするのは当然だが、それは寺での行事がなされていて初めて成り立つ事で、本末転倒な状況にあつた。

私がここで課せられたのは、寺務の建て直しと長年途絶えていた典礼の復興にあつたと言つてよい。そして私が来た年から、寺での盂蘭盆会(うらなはんえ)厳修を試みる事にした。クーラーなどない本堂で、猛暑の中、数時間を過ごして貰うには、気持ちだけでも涼を提供できるような法要を目指したのだつた。この法要こそ、『往生礼讃偈』を依用するべきだと考えた。盆参りの手伝いに来た若い僧侶たち

も、本堂に出仕してくれての『往生礼讃偈』の「合唱」は、神戸の人々を魅了するには十分であつた。

時代の変遷とともに、宗派を問わず伝統的な典礼が簡略化されていく傾向の中で、儀礼そのものの意味でさえ曖昧になってくるものである。そんな中で『往生礼讃偈』は、日本人の多くが、浄土信仰に目覚めるに至った機縁になったといつても、決して過言ではない。

しかし、現代ではその事を説明しない限りは、何故浄土真宗がこの声明を用いるのか、或いはその意義とは何かという事は、解らないまま曖昧になってしまふのである。もっとも、我が浄土真宗にあつては、『往生礼讃偈』が占める位置はそれ程高くないけれども、親鸞の師匠である法然の遺徳を偲び、かつ、その哀調な旋律をして、我われの祖先が希求した、精神文化の故郷に思いを致すタイムカプセルであると考えている……。

混を在楽しむ

キョウト的アートのみかた3

流行に流されず 時を内包して

特定非営利活動法人アート・プランまぜまぜ さとうひさゑ

「場所や住民との関係が強く、継続し、変化してゆくアートプロジェクトが京都でもみられる。」「ヨーロッパではアートは哲学だが、日本ではファッションである」と言う話を聞いたことがある。ヨーロッパのアートシーンに精通している人で、同じようなことを実感している人は多いようだ。もちろんファッションであるアートがあっても構わないのだが、もつと見る人にとって生活の延長線に感じられるようなあり方があってもいいとわたしは考えている。

これはこれまで2回の連載の中でも、言葉を変えて繰り返してきたメッセージである。すぐに大きな成果は期待できなくても、その場所にあったやり方で育っていくアートプロ

ジェクトを今回は紹介し、前回の連載で触れたわたし自身が主催するNP活動のことも書いていきたいと思う。

現代アートを開かれた場に持ち込むプロジェクト

アートプロジェクトとは社会の開かれた場で、アーティストとさまざまな人々とが参加・協力するプロジェクトの総称である。アートプロジェクトが注目されるようになったのは、90年代の半ば以降からである。

前回の連載で書いたパブリックアートとのつながりも深い。「市民生活の場でのアート」ということでは共通しているが、モノであるかコトであるかで大きな差がある。パブリッ

クアートが流行した時期（95年頃）に、そのあり方に疑問を持ち、もつとリアルな現代アートを開かれた場に持ち込みたい、アートの公共性をもつと真剣考えたいという思いを動機にアートプロジェクトに踏み出した人も少なくない。

ここで紹介するアートプロジェクトの主催者が必ずしもそういった考えを持っているとは限らないが、これは時代の流れとして押さえておきたい事項である。資金をモノにすることで価値があると思われた時代から、その場所がもともと持つものの価値を見つけ、そこから新しいささやかな試みをおこす時代へ。世の中の風潮とアートの現れ方は決して違うものではないのである。

まずは今年8年目を迎える「How are you, PHOTOGRAPHY? 展」から紹介したい。毎年12月に京都市数箇所のギャラリーで写真の展覧会を同時開催している。開催場所が既存のギャラリースペースであるので、市民生活に開かれた場とはいいがたいかもしれないが、この8年間で地域的な広がりをつくってきたと言っている。

当初参加者は18名の写真展だったというが、昨年の参加者は202名、展示ギャラリーは11箇所、他にも写真に関するシンポジウムや一般の人にも参加できるワークショップなどの企画も盛りだくさんである。

クリスマスのころになると「今年のHow are you?の会期はいつからだろう」と、気になるくらいである。なぜそれほどまでの広がりを持てたのかというのは、実行委員の力も大きいだろうが、写真という表現媒体が身近なものであるということと、この企画自体が「写真」

であるということのみが出展基準であり、素人に対しても素人なりの表現の面白さを認め、プロフェッショナルに対しても、技術うんぬんだけでない表現としての面白さを自然と要求しているからではないだろうか。ここでもまた「混在を楽しむ」というのがキーワードになってくる。

2つ目は高瀬川を舞台に行われる春の「さくらまつり」と夏の「灯ろう流し」を取り上げたい。高瀬川はいわずと知れた、京都の中心を流れる川である。その川で最もにぎやかな三条〜四条間でこの2つの行事は行われる。もともとは旧立誠小学校のお祭りだったが、小学校が廃校になったのち、10年ほど前からアーティストが参加するようになった。現在は芸術家団体である京都アートカウンスルが地元の自治連合会とともに企画に参加している。

地元とアーティストとの認識の違いなど紆余曲折はあったもののさく

らまつりには個性豊かな花見行事、灯ろう流しにはたくさんさんのアート灯ろうが毎年流れる。そしてアート灯ろうに刺激を受けた地元からの要望で、灯ろうづくりのワークショップも毎年行っている。

また、一過性の行事だけでなく、アーティストの持つノウハウで廃校になった小学校の卒業写真を拡大して展示する「立誠小学校卒業写真展」も継続的に行っている。地元の卒業写真提供者は絶えず、展覧会のたびに徐々に点数は増えている。正に地元住民とアーティストのコラボレーションと言っている。

昨年からは秋の催しとして、立誠小学校を使つての「まなびや2002」が始まった。「大人小学校ごっこ」がテーマである。芸妓さんや腹話術師による授業からライブやアートマーケットまで多彩催しが繰り広げられる。アートとは少し離れた気もするが、地元とアーティストのコミュニケーション

ファンを獲得！

三木 千種

私が海外に出かける時の最大の楽しみは、どの美術館・博物館・公園を訪れるかだ。世界の誰もが知っている超有名な施設やその町の憩いの場にちょこんとある施設、規模の大小にかかわらず、その町の顔のようなものが見えてくるからだ。

翻って日本では美術館・博物館は、採算を考えた運営をせよとの法律ができ2年が過ぎようとしている。いったいどんな風になるのか、私は、不安8割・期待が2割という気持ちで見守ってきた。

京都国立博物館の「アート オブ スターウォーズ展 パート1 エピソードIV・V・VI (2003・6・24〜8・31)」は、そんな時機の意外な場所での開催だった。この企画を知ったとき、「何で博物館なん？」が正直な感想だった。このタイプの催しは、百貨店のホールの得意技だと思っていたし、同時代の作品を扱うという点で



の遠足だった。その時、何を観に博物館を訪れたのか今では全く覚えていない。が、広い庭と旧館の洋風建築が強く印象に残っている。関西の小中学校はもう、遠足で博物館には行かなく

は、やはり近代美術館での開催が順当だという気がする。

今回何人かの20代の友人に「スターウォーズって何処でやっているの」と尋ねられた。

私は兵庫県出身なのだが、初京都国立博物館体験は、小学校

なっているのだろうか。

正直私は、スターウォーズフリークではない。それどころか、5作品を見ているにもかかわらず、タイトルと中身がグチャグチャになって記憶されているダメな鑑賞者だ。私のような者のためではないだろうが、今回、会場のあちらこちらに液晶ディスプレイが設置されていた。できあがった映像と絵コンテ・さまざまなイラストレーション・模型・衣装等が同時に楽しめる構成は、なかなか気が利いている。

スターウォーズの第1作目エピソードIは1977年に全米で（日本は1978年）公開され、「予想をはるかに越える大ヒットで、すべての興行記録を塗り替えた」と図録には記してある。この展覧会をきっかけに、新たな博物館ファンが育っていけば、チャレンジの甲斐もあろう。2004年早々にはエピソードI・IIを中心としたパート2も開催される。

の中から生まれた企画であることの方が重要だと思っている。

地域に密着したプロジェクトが数多く行われることも重要だが、理念として「アートの公共性」軸にし、実践することも重要だと思っている。わたしが中心に設立した「特定非営利活動法人アート・プランまぜまぜ」（以下まぜまぜ）はこちらに分類される。

NPOアートプランまぜまぜを「市民のためのアートの窓口」に

前回の連載執筆時はまだ準備会の段階だったが、晴れて02年4月に京都府の認証を受け、特定非営利活動法人（NPO法人）となった。準備会で半年かけて練り上げた趣旨文をわたしたちはとても気に入っている。何よりも準備会に参加していたメンバーが、趣旨をつくりあげる時間を共有できたことがとても重要である。どんな困難なときにも帰る場所がある。そんな心強い趣旨文である。

内容的にはアートとするものの定義が重要である。アートは芸術家個人の中で生まれるものだという考え方もあるが、まぜまぜは、個人の表現が人の心を動かしたときはじめてアートになるのだと定義した。だからこそアートはさまざまな人となりがりを持つ必要があるし、表現を受けとる側もまた主体的に関わってこそアートが生まれるのである。理屈ばかりではどんな会なのか見えてこないと思うので2002年におこなったプロジェクトを少し紹介したいと思う。

障害者のためのアートワークショップを企画や市民の要望に答えての壁画の制作など普段アートとの関わりがあまりない人向けの企画から、専門家向けには「文化芸術振興基本法」を扱った連続講座やシンポジウムなどを開催した。

特に02年12月に行ったシンポジウムは画期的なものだった。「政治家は文化など関心がないだろう」と専門

家の大多数が諦めていることは承知の上で、実際のところはどうか、と「文化政策」をテーマに自民党や民主党など主要な政党の市会議員、府会議員を招いてのパネルディスカッションをおこなった。

実行体制の不行きどきや広報不足など至らぬ点はたくさんあったが、政治家の生の声を聞くこともでき、またわたしたちの趣旨も明確に会場に伝わり、市民と政治家の新しい結びつきを示すことのできた、とても充実した会になった。将来的には「市民のためのアートの窓口」として機能し、文化施策もタイミングを逃さずに発言できるような会に成長させていきたいと考えている。

「継続は力なり」というが正にそのとおりである。流行に流されるのではなく、時を内包して蓄積させることが、そのまちの文化の厚みを増していくことになるのではないだろうか。アートがまちで果たす役割とはそういうことだと考えている。

表紙写真撮影：WATCH + TOUCH 高橋由紀子



万緑を誇っていた木々も一葉一葉、色づいてくる。そしてある日、気づくと自然はすっかり冬支度を済ませているはずだ

秋の月 光さやけみ もみじ葉の
おつる影さへ 見えわたるかな
紀貫之

歯止め無く進んでいく文明が、いかに大地を汚染していこうとも、1200年前の文化は、綿々と私達の遺伝子に訴え、確かに伝えられていく

す。もともと京都歯科センターは、歯科衛生士の養成、京

また皮肉なことに、今回計画されているマンションは、本格的なバリフリーが売りになっています。住民側が勝訴した国立市の前例もあること、せめても「景観権」は守られてほしいです。

都市西部地区の歯科休日診療、心身障害児の歯科医療を行うために建設された、周囲の自然環境にとけこむ赤いれんが造りのおちついた建物でした。住民にとって、寝耳に水しか言えないできごとです。大きな動きにまでは発展していないものの、もう1つ住民を怒らせていることがあります。それは、ニュータウンの各地区に設けられていたスーパーなどの商業施設が軒並み廃業になっていることです。住民の高齢化がすすむなか、徒歩で行ける範囲内で食料、生活用品が購入できない現状は、まさに死活問題。経済が右肩あがりの時代につくられたずさんな都市計画の末路です。

オールドタウンの住民運動

京都市 竹

今、洛西ニュータウンの一角で、「景観権」を巡る住民運動がくりひろげられていることをご存じでしょうか。瀟洒な家の生け垣に掲げられた横断幕には、「マンション建設差止係争中・7町内」の文字がおどっています。場違いとしか言

い様がないのですが。発端は、大蛇が池公園に隣接する京都歯科センターが取り壊され、跡地が民間不動産業者に転売されて、マンション建設の計画がもちあがったことです。その計画を住民が知るまもなくあっさり更地になり、業者はモデルルームをつくり販売を始めました。マンションが立てられるのは、市街地景観整備条例にもと

表紙のことば

木

かげ

みれば

なみのそこなる

ひさかたの

そらこぎわたる

われぞさびしき

自身を女に見立て、虚実おりませ

紀貫之は、約千年前に書いた紀行文に

土佐からの帰途、波に映る月影を見ているうちに
空を漕いで渡っている気分を味わった、と詠んだ

虚は実

現は幻

あなたの足許にも、不思議な世界の入口が扉を開いている


WATCH + TOUCH TAKAHASHI YUKIKO

<http://www.juno.dti.ne.jp/~uto/index.html>

京都TOMORROW バックナンバーのご案内

Vol.1

(第1回京都建築フォーラム賞文化賞受賞)

- 1号 国体リポートⅠ、Ⅱ
 - 2号 京都の町並みを考える
 - 3号 老人問題を考える
 - 4号 京都を考える
 - 5号 鴨川を考える
- 
- 6号 留学生問題を考える
 - 7号 京都の劇場とホール
 - 8号 市民運動が目指すもの
 - 9号 一条山の悲劇
 - 10号 新伏見学入門
 - 11号 島原大夫花の乱
 - 12号 深泥池をどう守るか
 - 14号 再び、京都景観論争
 - 15号 京都景観論争の新段階
 - 16号 人間にやさしいまちづくり
 - 18号 ゴミ問題への視点
 - 19号 消えていいのか京都の近代建築
 - 20号 京都の地下は大博物館
 - 21号 揺れ動く京都景観問題
 - 22号 京都の自然・再発見

Vol.2

(第10回N T Tタウン誌大賞奨励賞受賞)

- 1号 地域考・京に棲む
まちづくりと地域雑誌*
- 2号 京の樹木に会う
京の樹木マップ・街路樹めぐり／木と対話
する／御池のケヤキはどこへいった
- 3号 追跡・京都の町内会
近世京都と町組の自治／京都の町内会－明
治から現在／町内会レポート
- 4号 これも京都“深夜”を探る
夜の神社／深夜の現場レポート／深夜のマッ
プ／夜の社交場探訪記／京都の深夜風景
- 5号 老人ケアのゆくえ
－死ぬまで京都でくらしたい－
座談会：在宅看護の体験／老いと性／有料
老人ホームを訪ねて その1
- 6号 検証・バブル現象を京都に見る
－バブルなんてクソくらえ－
座談会：バブル崩壊不動産業者大いに語る
／有料老人ホームを訪ねて その2
- 7号 ズームアップ戦時期の京都
座談会：「我が青春に悔いあり」学徒勤労動
員の記録／京都にも空襲があった



- 8号 京の川・最新事情
都市の河川よ、よみがえれ／京の川・見て
ある記／京都・失われた川
- 9号 京のみち・路・道・通
座談会：京都に「人間のための道」を求め
て京都の高速道路計画／京の道の不思議

京都TOMORROW バックナンバーのご案内

Vol.3

- 10号 京都・シネマパラダイス－映画に行こう！
座談会：映画都市・京都いま潜行期を生き
る／時代劇映画のロケ地巡り
- 11号 なんだす？ 建都1200年
座談会：危機の象徴、建都1200年／ウオッ
チング京都1200年事業
- 12号 死ぬまで京都でくらしたい
－在宅ケアの現在－
座談会：現場が語る在宅ケア／ホームヘル
パーに関するなんでもQ&A



- 13号 占領期の京都
戦時・占領下の岡崎動物園／年表占領期の
京都／生家は進駐軍の秘密事務所だった
- 14号 琵琶湖大渇水
病む琵琶湖－空からみた大渇水報告／追跡
1994・琵琶湖が涸れた2ヶ月
- 15号 京の本屋さん
物語のある座談会／京の本屋さんはいま元
気印／大学の前から本屋が消える
- 16号 その時、京都は！！－阪神大震災と京都－
主な支援状況／京都の被災状況／原子力防
災／折り込みマップ・京都の断層
- 17号 京都の大学どう変わる
座談会：大学改革のウラオモテ／京都・大
学センター／留学生事情
- 18号 京のお寺さん
座談会：和尚さんが語る夕べ／伝統仏教と
京都との腐れ縁史／仏教ガイド
- 19号 京都発・地域と放送局
座談会：地域に生きる放送局／人権とマス
コミ報道－河野義行さんとオウム真理教

- 1号 今、町家が新しい
京町家の心意気／座談会：町家の保存と再
生を考える／COP3に向けて
- 2号 京都の元気な商店街
コンビニ文化をめぐるクロッキー／商店主
婦が受け継ぐ商店街の奥行き
- 3号 どうなってる？ 京都の政界
京都から新しい国政をめざして／取材：
社民党・共産党・NPF・自民党
- 4号 幻と消えたポン・デ・ザール橋／
京・ゴミ・今日
鴨川歩道橋とパリ芸術橋の真似の不可解
な関係／ドイツのゴミ処理から学ぶもの
- 5号 京都の不況／
京都の世界経済に貢献できるか／弁護士
事務所から見た不況
- 6号 金融再編成・京都版－市民からの提案／
銀行に本気で言いたいこと、望むこと／京
都で信頼できる銀行、信金はどこ？
- 7号 ベンチャーの攻防 in 京都／
「こだわり」がベンチャー興隆の源泉だ／
うけつがれる、ものづくりの伝統
- 8号 京都の介護保険事情／
介護保険と高齢者のこれからの住まい
方／老いをどう生きるのか
- 9号 映画へ行こう／
映画都市への再生・京都／フィルムライ
ブラリーと京都の映画

バックナンバーご希望の方は
直接〈京都TOMORROW〉へ
お申し込み下さい。

〒604-0845 京都市中京区烏丸通
御池上ル 萬成ビル5階
(有)ツエルコーヴァ気付
TEL (090) 2590・9881
FAX (075) 211・6968

■今年の初めからかき切っていた膨大な原稿を仕上げたところで、市長選挙のための候補者選びにはまりこんでしまい、お陰で当分はギリシアに行つて歸つて来ないという娘とほとんど名残を惜しむ時間がとれず、娘が去つた今となつて何とない喪失感が頭にこびりついて離れない、というような感傷にひたる余裕もなく市長選挙戦は走り始めた。原稿書きのために溜めていた仕事もどさつとある。

今回の選挙は、私の永年の夢である無党派、市民派の初挑戦である。それだけでなく、この京都の行政を暗く覆っていた議員利権、同和利権の束縛を解き放つ時がいよいよ訪れるのかという期待がある。現在考えられる中で是最良の候補者も得た。

今回の特集は、しかし、この候補者を当選させるためのものではない。結果はともかくとして、京都における市民派、無党派が何故このような行動に出たのかということを経都の政治史に止めておくための記録である。

■この4月から京都を離れ、東京で仕事をしている元編集部員です。こっちで初めてお会いした方に出身を聞かれ、京都だと答える度に、「京都か。いいねえ」という反応をいただきます。関東に着てから改めて、〃京都〃という存在の大切さを知った気がします。京都は日本人の心の中にある〃和〃の部分のよ

その京都を動かしてゆく市長選。選挙権がなくなった今でも目が話せません。(平山)

■ニューヨークのセントラルパークが、市民たちからの年間20億円の寄付、9000名のボランティアで運営されていることを最近知りました。70年代の始め、市の財政悪化で荒れ放題になった公園の状態を見かねたニューヨークに住む人々がたち上がり、行政にたよらずに復興資金を集め現在の姿を取り戻したそうです。

摩天楼のまんなかの森、園内を駆け回る小動物、お洒落なレストラン、どれもこれも、セントラルパークを愛し守ろうとする普通の人々が企画運営していたとは!? 京都でも何かできそうです。

(桂)

(桂)

■「朝まで生テレビ」など、井戸端談義風政治TV番組で憂さ晴らし、市民運動も政治もまるで縁がなかったこれまでの私です。今回、市民の会の立ち上げから候補者の選定の過程を目の当たりにして、行動を起こすことの勇氣と誠実さに感動しました。市長はやはり市民の代表がいと思います。

(CAN)

(CAN)

京都TOMORROWの
ホームページがOPEN!
://homepage3.nifty.com/kyoto-tomorrow/
♪意見・感想お待ちしております。

● 1卓5名～20名様掛で30,000前後より、600,000円の豪華版まで。
予算・人数に合わせて、質・量共にご満足いただけるお料理を
ご用意します。

健康志向・薬草多用 **本場中国の宮廷料理**



康鳴春飯店



京都市北区小山下内河原町84番地／電話 (075) 492-8100

稍迟

02		京都		払込取扱票										通常払込料負担加															
加入者名		口座番号 (右詰めに記入ください)										金額		〒		百		十		万		千		百		十		円	
												※																	
010204		20274																											
京都TOMORROW																													
<p>※この機会に、ぜひ、定期購読の申し込みを！</p> <p>定期購読 (新規・継続) 第 号から</p> <p>※小誌へのご感想をお書き下さい。</p>																													
通信欄																													
払込人住所氏名		(郵便番号) ※																											
		(電話番号) ()																											
		裏面の注意事項をお読みください。(郵政省)																											
		受付局日附印																											

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

裏面の注意事項をお読みください。(郵政省)

(電話番号)

受付局日印

切り取らないで郵便局にお出しください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

口座番号	010204	通常払込料金加入者負担
加入者名	右記めにご記入ください	
金額	20274	
金	千	円
額	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十
	十	百
	千	円
	百	十
	十	百
	万	十
	千	百
	百	十

BAR 先筭
■祇園歌舞練場北
☎(075)531/3770

桂御陵坊

牛吉

京都
TOM

發
發
編

ご購入
● 1部購
● 年間購

印刷／(株)

りどころになつてゐるのかもしれない。
その京都を動かしてゆく市長選。選挙権が

■今年の初めからかかり切つていた彫大な
原稿を
の候補
で当分
いう娘
ず、娘
が頭に
な感傷
り始め
事もど
今、回
派、市
く、こ
利権、
いよ訪
えられ
今、回
させる
として
このよ
の政治
■この
てゐる
いた
に、「吉
だきま
という
都は日



海の幸、山の実り
馥郁と、美酒佳肴
ここに極まれり

やげんぼりグループ

■株千金楽営業本部
京都市中京区新金屋四上る中之町565
(花遊小路江戸川内)

☎(075) 212/8808

お食事処
やげんぼり

■花見小路店/四上花見小路
☎(075) 525/3332

■末吉町店/末吉町通し角
☎(075) 551/3331

■赤坂店/東京・赤坂3丁目
☎(03) 3582/2270

■びすところ 薬研堀
☎(075) 221/5903

■しぐれ茶屋 佐助
☎(075) 531/5175

■乃木坂店/東京・赤坂9丁目
☎(03) 3408/8825

■出逢い茶屋 おせん
☎(075) 231/1313

■先斗町歌舞練場北
☎(075) 231/1313

■祇園歌舞練場北
☎(075) 531/3770

■先斗
☎(075) 231/1313

■高島屋店/高島屋地階1111イン
☎(075) 252/7892

■本店/新金屋花遊小路東
☎(075) 221/1550

■花遊小路 江戸川
☎(075) 551/9966

■西上見小路四下ル
☎(075) 551/9966

■祇園歌舞練場北
☎(075) 531/3770

京都に初の温泉誕生！



月を愛でる本格派の露天風呂
薬効豊かな天然温泉

京都桂温泉
仁左衛門の湯

京都市西京区国道9号線千代原口西1km

営業時間/午前10:00~深夜2:00年中無休 土日祝日は午前8:00~
TEL 075(393)4500 無料駐車場200台完備



京都

2003年 秋号

Vol. 3 第10号 (通巻51号) 定価510円 (本体485円)

TOMORROW

編集委員：折田泰宏 安見恵子

発行 (有) ツェルコーヴァ

〒604-0845 京都市中京区烏丸通御池上ル萬成ビル5階

発売 素人社

〒520-0016 滋賀県大津市比叡平3-36-21 TEL 077-529-0149 FAX 077-529-2885

編集 京都TOMORROW

〒604-0845 京都市中京区烏丸通御池上ル萬成ビル5階 ツェルコーヴァ気付
TEL 090-2590-9881 FAX 075-211-6968

ご購入ご希望の方へ

- 1部購読 510円 (送料込 650円) ご購読希望の方は、郵便振替・01020-4-20274
- 年間購読 (4冊) 2,040円 (送料込 2,600円) 京都TOMORROW

印刷/株) コミュニティ 洛南 〒601-8449 京都市南区西九条大町33 TEL 075-661-5210 FAX 075-672-0788

この受領証は、郵便局で機械
処理をした場合は郵便振替の払
込みの証拠となるものですから
大切に保存してください。

注意
この払込書は、機械で処理し
ますので、口座番号及び金額を
記入する際は、枠内に丁寧に記
入してください。
また、下部の欄 (表面及び裏
面) を汚したり、本票を折り曲げ
たりしないでください。
(郵政省)



素人社 発売

ISBN 4-88170-707-8 C1036 ¥485E

定価510円(本体485円)